第十條　屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム（同上）

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキハ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム（同上）

第十二條　此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス（同上）

屯田兵給與地取扱規則

（明治二十八年十一月勅令第百五十三號）

朕屯田兵給與地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵給與地取扱規則

第一條　屯田兵移殖地ノ區域ヲ定ノントスルトキハ其ノ概測圖ヲ添ヘ陸軍大臣ヨリ之ヲ內務大臣ニ協議スヘシ

第二條　前條移殖地ノ區域定リタルトキハ陸軍大臣ハ給與地積ト其ノ區域內ニ於テ公用ニ供スヘキ地積等ヲ區分シ其ノ略圖ヲ添ヘ土地ノ引渡ヲ內務大臣ニ請求シ內務大臣ハ北海道廳長官ニ令達シ北海道廳長官ハ實測圖ヲ添ヘ之ヲ屯田兵監督部長ニ引渡スヘシ

第三條　前條土地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ屯田兵監督部長ハ屯田兵土地給與規則ニ依リ屯田兵及屯田兵村ニ給與スヘキ土地及其ノ他ノ土地ノ區畫割ヲ爲シ屯田兵司令官ニ移シ同司令官ハ官有

トシテ存置ヲ要スル土地竝ニ道路堤塘溝渠等ニ充ツヘキ部分ヲ除キ其ノ他ノ土地ヲ屯田兵及屯田兵村ニ給與スヘシ

第四條　屯田兵監督部長ハ前條ノ區畫割ヲ爲スニ際シ道路堤塘溝渠等ノ計畫竝ニ工事ノ仕樣ニ關シテハ北海道廳長官ニ協議スヘシ爾後其ノ新設又ハ變更ニ於ケルモ亦同シ

第五條　屯田兵司令官ニ於テ土地ヲ給與シタルトキハ同時ニ其ノ土地竝ニ官有ニ屬スル道路堤塘溝渠等ノ明細圖面ヲ添ヘ左ノ事項ヲ北海道廳長官ニ移牒スヘシ

一　給與シタル年月日

二　給與シタル人名及其ノ住所竝ニ服役滿期ノ年月

三　公有財產トシテ給與シタルトキハ其ノ村名竝ニ當該兵村屯田兵服役滿期ノ年月

四　給與シタル土地ノ地名地目地積及地番號

五　道路堤塘溝渠等ヲ設置シタルトキハ其ノ地名地目地積番號

第六條　北海道廳長官前條ノ移牒ヲ受ケタルトキハ屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ヲ民有地ニ編入スヘシ

第七條　北海道廳長官ニ於テ公益ノ爲メ屯田兵移殖地ノ一部ヲ使用スルノ必要アルトキハ之ヲ屯田兵監督部長ニ協議シ各其ノ所管大臣ニ具申スヘシ

第八條　屯田兵移殖地若クハ屯田兵村內ノ道路堤塘溝渠等ノ興廢ニシテ其ノ工事兵村ノ利害ニ止マラサルモノハ北海道廳長官之ヲ施行ス

第九條　屯田兵土地給與規則第五條ニ該當スル土地ノ沒收ハ北海道廳長官之ヲ施行ス

同規則第六條ニ該當スル土地ノ沒收ハ屯田兵司令官之ヲ施行シ本則第五條ノ事項竝ニ沒收ノ事

由ヲ記シ之ヲ北海道廳長官ニ移牒スヘシ

第十條　北海道廳長官本則第六條ノ手續ヲ履行シ若クハ第九條第一項ノ處分ヲ爲シタルトキハ屯田兵司令官ニ通知シ所管郡區長ニ示達スヘシ

第十一條　左ニ掲クル土地其ノ所要ヲ經リタルトキハ公有財産トシテ兵村ニ給與スヘシ但公有財産トシテ既ニ給與シタル土地其ノ所要ヲ經リタルトキハ屯田兵土地給與規則第二條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

一　官有建物所要地

二　練兵場

三　射的場

四　軍事教育用ノ作業場

前項ノ場合ニ在テハ屯田兵監督部長ハ明細圖ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ同時ニ北海道廳長官ニ移牒スルモノトス

附則

第十二條　本則ハ從前北海道廳長官ヨリ屯田兵司令官ヘ引渡シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス但屯田兵司令官ハ本則施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ

◎屯田兵下士服役及給與

（明治二十三年九月勅令第二百二號）

朕屯田兵下士中服役及給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

近衛及師團ノ諸隊並陸軍官廨ヨリ轉シタル屯田各兵科下士ニシテ一箇年以上其職ヲ奉シタル者ハ更ニ願ニ由リ屯田兵條例ニ依リ服役スルコトヲ得其諸給與ハ屯田兵トシテ移住スル者及屯田兵出身ノ下士ニ同シ

◎憲兵條例

（明治三十年九月勅令第三百三十二號）

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

憲兵條例

第一章　總則

第一條　憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察、行政警察、司法警察ヲ掌ル其ノ職時若ハ事變ニ際シ特ニ要スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣ニ隷シ行政警察ニ係ルモノハ内務大臣ニ隷シ司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ニ隷ス但臺灣ノ軍事警察、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ臺灣總督ニ隷ス

第三條　憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事（東京府知事ヲ除ク）及檢事ノ指示ヲ承ク但臺灣ニ在テハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ縣知事、廳長及法院檢察官ノ指示ヲ承ク其ノ他地方ノ守備ニ付テハ旅團長、要塞司令官又ハ守備隊長ノ指揮ヲ承クヘキモノトス

第四條　憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條　憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラスシテ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一　暴行ヲ受クルトキ

二　其ノ占守スル土地若ハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條　第一乃至第七憲兵區内ニ在テハ必要ノ場合ニ際シ内務大臣陸軍大臣協議シテ憲兵ヲ一時彼此其ノ管區外ニ分派スルコトヲ得

臺灣ニ在テハ臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ憲兵ヲ其ノ管區外ニ使用スルコトヲ得

第二章　配置編制

第七條　東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各管區ニ憲兵隊ヲ配置ス

憲兵隊ニハ其管區ノ番號ヲ附ス

憲兵管區ハ別表ニ依ル

第八條　各府縣廳所在地及北海道、臺灣樞要ノ地ニ漸次憲兵分隊ヲ置ク其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區トス但臺灣ニ在テハ必要ニ應シ憲兵分隊ノ一部ヲ分駐セシメ其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區ト爲スコトヲ得

憲兵分隊ニハ府縣ノ名（北海道ニ在テハ分隊首部所在地名）ヲ冠ス但臺灣ニ在テハ番號ヲ附ス

第九條　憲兵警察區ヲ數箇ノ憲兵巡察區ニ分劃シ各巡察區ニ憲兵一伍若ハ數伍ヲ配置ス

第十條　憲兵警察區ノ區域ハ府縣ハ其ノ區域ニ從ヒ北海道ニ在テハ陸軍大臣、内務大臣協議シテ之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵隊長ヨリ警視總監、北海道廳長官、府縣知事（東京府知事ヲ除ク）ニ協議シテ之ヲ定ム

臺灣ニ在テハ憲兵警察區ハ臺灣總督之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵隊長之ヲ定ム

第十一條　憲兵司令官　少將若ハ憲兵大佐

副官　憲兵少佐、憲兵大、中尉

軍吏

書記　憲兵下士、軍吏部下士若ハ屬

第十二條　憲兵隊（第八乃至第十憲兵隊ヲ除ク）ノ職員左ノ如シ

本部

隊長　憲兵中、少佐

副官　憲兵大、中尉

軍吏

下副官（准士官）　憲兵曹長

書記　憲兵下士、軍吏部下士

分隊

分隊長　憲兵大、中尉

分隊副長　憲兵中尉

書記　憲兵下士

上等伍長（准士官）

伍長　憲兵曹長

憲兵上等兵

分隊副長及上等伍長ハ之ヲ置カサルコトヲ得

第十三條　第八乃至第十憲兵隊ノ職員左ノ如シ

本部

隊長　憲兵大、中佐

副官　憲兵大、中尉

軍醫

獸醫

軍吏

下副官(准士官)　憲兵曹長

書記　憲兵下士、軍吏部下士

蹄鐵工長若ハ蹄鐵工下長

看護長

分隊

分隊長　憲兵大尉

分隊副長　憲兵中尉

軍醫

上等伍(准士官)　憲兵曹長

伍長

書記　憲兵下士

憲兵上等兵

看護長

第十四條　憲兵上等兵五名乃至十二名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊トス

爲ス必要ニ依リ伍ニ乘馬ヲ附シ又臺灣ニ在テハ伍ニ伍長ヲ增加ス

第三章　職務

第十五條　憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條　憲兵司令官非常若ハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ內務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、司法大臣ニ申報スヘシ

第十七條　憲兵司令官ハ軍紀、風紀、訓練、教育及職務服行ノ程度ヲ檢閱スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條　憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條　憲兵隊長ハ管區內ノ情勢ヲ審ニシ非常若ハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ衛戍司令官、要塞司令官、警備隊司令官、鎭守府司令長官、要港部司令官、北海道廳長官及管轄控訴院檢事長ニ申報シ臺灣ニ在テハ臺灣總督及憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ旅團長要塞司令官法院檢察官ニ申報シ鄰接憲兵隊長ニ通報スヘシ

第二十條　憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス又警察區內

ノ情勢ヲ審ニシ非常若ハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ警視總監、府縣知事（東京府知事ヲ除ク）及管轄地方裁判所檢事正及憲兵隊長ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ直ニ衛戍司令官、要塞司令官、警備隊司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官ニ申報シ臺灣ニ在テハ縣知事廳長、法院檢察官及憲兵隊長ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ直ニ守備隊長ニ申報シ又鄰接分隊長ニ通報スヘシ

第二十一條　憲兵分隊長ハ常ニ警部長警視其ノ他ノ警察署長及鄰接分隊長ト交互諜報シ其ノ地方ノ情況ヲ知悉スヘシ

第二十二條　憲兵分隊副長ハ分長ノ一部ヲ指揮ス其ノ職掌分隊長ニ亞ク

臺灣ニ在テハ憲兵分隊副長一ノ警察區ニ分駐ヲ命セラレタルトキハ分隊長ト同一ノ職務ニ服ス但其ノ分隊長ノ統轄ヲ離ルルコトナシ

第二十三條　憲兵上等伍長及伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察區內ヲ巡視シ其ノ事情ヲ知悉スヘシ又必要ノ事件ハ其ノ地方ノ警察官ト相互諜報スヘシ

第二十四條　憲兵上等兵ハ常ニ巡察區內ヲ巡察シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十五條　憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム但臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第二十六條　當分ノ內憲兵少尉ヲ以テ分隊長若ハ分隊副長ノ職ニ充ツルコトヲ得但臺灣ニ在テハ中尉ヲ以テ分隊長少尉ヲ以テ分隊副長ノ職ニ充ツルコトヲ得

第二十七條　當分ノ內憲兵隊長、副官、分隊長、分隊副長ハ豫備役、後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二十八條　臺灣憲兵隊條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表ハ之ヲ略ス）

戒嚴令（明治十五年八月第三十六號布告）

戒嚴令別册ノ通制定ス

（別冊）

戒嚴令

第一條　戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條　戒嚴ハ臨戰地境合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一　臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二　合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻擊其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條　戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條　戰時ニ際シ「鎮臺」營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ合圍若クハ攻擊ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第五條　平時土寇ヲ鎭定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絕シ命ヲ請フノ遑ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條　軍團長師團長旅團長「鎮臺」營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令長官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス（明治十九年勅令第七十四號ヲ以テ本條改正）

第七條　戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ「太政官」ニ上申ス可シ但其隷屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條　戒嚴ノ宣告ハ曩ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條　臨戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條　合圍地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條　合圍地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章　皇室ニ對スル罪

第二章　國事ニ關スル罪

第三章　靜謐ヲ害スル罪

第四章　信用ヲ害スル罪

第九章　官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節　謀殺故殺ノ罪

第二節　毆打創傷ノ罪

第六節　擅ニ人ヲ逮捕監禁スル

第七節　脅迫ノ罪

第二章

第二節　强盜ノ罪

第七節　放火失火ノ罪

第八節　決水ノ罪

第九節　船舶ヲ覆沒スル罪

第十節　家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條　合圍地境内ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衙裁判ニ屬ス

第十三條　合圍地境内ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　戒嚴地境内ニ於テハ司令官左ニ列記ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一　集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト
第二　軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト
第三　銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スルコト
第四　郵信電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ竝ニ陸海通路ヲ停止スルコト
第五　戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動產不動產ヲ破壞燬燒スルコト
第六　合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入リ檢察スルコト
第七　合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト
第十五條　戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其效力ヲ有スル者トス
第十六條　戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

◉法律規則中戰時ト稱スル場合

（明治十五年八月第三十七號布告）

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ內亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムル者トス

◉臺灣戒嚴令施行ノ件

（明治三十年四月勅令第百一號）

朕臺灣ニ戒嚴令施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治十五年第三十六號布告戒嚴令ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

◉徵發令

（明治十五年八月第四十三號布告）

徵發令別冊ノ通制定ス

（別冊）

徵發令

第一條　徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス但平時ト雖モ演習及行軍ノ際ハ本條ニ准ス
第二條　徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ
第三條　左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
「陸軍卿海軍卿鎭臺司令官及ヒ鎭守府長官」
二　陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
三　海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長
第四條　徵發ス可キモノヲ種類ニ依リ徵發區（會社モ之ニ準ス）定ムルコト左ノ如シ
一　第十二條第一項ハ　府縣
二　第十二條第二項及ヒ第三項ハ　郡區
三　第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ　町村
四　船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ　會社
第五條　徵發ス可キモノハ徵發區內ニ現在スルモノニ限ル

第六條　徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條　徵發書ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條　各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條　徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事「縣令」郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條　徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條　供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條　徵發ス可キモノ左ノ如シ

一　米麥秣藁鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
二　乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
三　人夫
四　宿舍廐圉及ヒ倉庫
五　飲水石炭
六　船舶

七　鐵道汽車
八　演習ニ要スル地所
九　演習ニ要スル材料器具

第十三條　戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ揭クルモノノ外徵發ス可キモノ左ノ如シ

但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一　造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
二　職工礦夫洗濯人ノ類
三　被服裝具艸鞋兵器彈藥船具廢具藥劑治療器械及ヒ繃帶具
四　水車搗舂ノ類
五　病院

第十四條　第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　皇族所用ノ車馬
二　外國公使館竝ニ領事館ニ屬スル車馬
三　乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
四　郵便用ノ車馬
五　公認セラレタル種牛種馬

第十五條　第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　公務ニ屬スル廨署
二　皇族ノ邸宅

三　外國公使館領事館及其所屬館
四　鐵道電信郵便用ノ建造物
五　陸海軍將校竝同官等現住ノ家屋
六　博物館書籍館
七　病院盲啞院棄兒院
八　學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
九、製造場內機械室

第十六條　第十二條第二項ニ揭クルモノノ使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條　第十二條第二項ニ揭クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條　第十二條第四項ニ揭クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條　宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ムトアルヘシ

第二十條　第十二條第四項ニ揭クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條　宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廐圉倉庫亦同シ

第二十二條　宿舍廐圉ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條　第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條　第十二條第六項及ヒ第七項ニ揭クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條　第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ揭クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條　第十二條第六項ニ揭クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及浮船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ時變ノ際ニ限ル

第二十八條　第十三條第五項ニ揭クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條　徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條　徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條　賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時時之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滯シテ三箇月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條　賠償ハ徵發區每ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條　徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ屆出ツ可シ其屆出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越エ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無效トス

一　四洋形船舶　七日間

二　地所　評價委員ノ告示スル時日間

三　其他ノ物件　一日間

第三十四條　第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三箇年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分一ヲ減ス

第三十七條　第十二條第二項及ヒ第六項ニ揭クルモノハ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條　第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條　第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條　第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條　第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外左ノ區別ニ從フ。

一　出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二　定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三　出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條　第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一箇月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條　第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ艀船ニ充テタルモノノ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條　第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外平常ノ定賃トス

第四十五條　第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條　第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條　第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條　第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ

賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條　第十三條第二項ノ徴發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條　第十三條第五項ノ徴發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條　徴發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條　徴發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サザルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　徴發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徴發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徴發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

徴發費用者處分竝ニ費用怠納ニ關スル出訴方

（明治十六年八月第三十一號布告）

徴發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年（十一月）第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ買受望人ナキトキハ徴發區ニ沒入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス

右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年（五月）第二十二號布告ニ依ル可シ

馬匹ノ調査及檢査（明治二十九年四月法律第六十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル馬匹ノ調査及檢査ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　戰時若ハ事變ノ際軍馬ノ補給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及檢査ヲ行フ

第二條　馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ檢査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但檢査ハ一年一回ヲ超ユルコトナシ

第三條　馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ屆出ヘシ

第四條　馬匹ノ所有者ハ指定ノ檢査場ニ於テ馬匹ノ檢査ヲ受クヘシ

馬匹ノ檢査ヲ受ケタル馬匹所有者ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五條　徴發令ニ依リ徴發ノ免除ヲ受クヘキ馬匹ニハ此ノ法律ヲ適用セス

第六條　馬匹ノ調査及檢査ヲ行フヘキ區域、時期、馬匹ノ種類、第三條ノ屆出事項及第四條ノ手當、旅費ノ金額ニ關スル規程竝此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條　東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市長ノ職務ハ區長之ヲ行フ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ區戸長又ハ之ニ準スヘキモノ之ヲ行フ

第八條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

軍事終

第三十一類　地方制度

◉市町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼方（明治二十一年八月内務省令第四號）

第一條　市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼結了ノ日ニ至ル迄ハ區長戸長區書記役場筆生等ニ於テ從前ノ通事務取扱ヲ爲スヘシ

第二條　前條事務取扱中地方税支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費竝ニ區役所戸長役場ノ經費ハ總テ該年度ノ豫算ニ據リ地方税又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條　市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタルトキ前條ノ地方税又ハ町村費ニ關シ未タ該年度ノ豫算ヲ議定セス又ハ議定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ通府縣知事戸長ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取リ前條費目必要ノ豫算ヲ定ムヘシ

第四條　市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村税徴收ニ至ルマテ市町村必要ノ費用ハ第二條ノ費用ヲ除クノ外區長戸長ニ於テ其豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ假徴收ヲナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セザル場合ニ於テハ各區町村會ニ於テ區區ノ豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スコトヲ得

前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニ依リ現在セル區町村費又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充ツルコトヲ得

第五條　區長戸長ニ於テ取扱タル一切ノ金穀竝會計帳簿ハ其金穀ノ種類及ヒ所屬年度ヲ區別シタ

ル明細書ヲ製シ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ第四條ノ金額ハ事務引繼前ニ支拂タルモノヲ除クノ外人口段別ヲ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口段別ノ最多キ部分ノ分屬シタル市町村長ヲ以テ主擔トシ其市町村長ニ引繼キ主擔市町村長ハ第七條但書ノ精算ヲ了シタル上其所屬外ノ部分ノ分屬シタル各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引繼クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルトキハ更ニ引繼クコトヲ要セス但閲覽ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條　第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上市町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲ス可シ

同條第二項ニ依リタルトキハ新ニ徵收シタル市町村稅ヲ以テ返償ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應シ各市町村ニ於テ之ヲ徵收シ主擔市町村長ニ於テ全額ヲ取纒メテ其返償處分ヲ爲スヘシ

第七條　區長戶長ニ於テ來タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其引繼ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之カ精算ヲ作リ市町會ニ報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ精算ヲ作リ主擔市町村長ハ其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主擔市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シ其市町村會ニ報告セシムヘシ

第八條　前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルトキハ市町村長ニ於テ舊區市町村ニ割戻ヲナス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主擔市町村長ニ於テ割戻ノ高ヲ定メ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ配付

シ各其割戻ヲナスヘシ

第九條　第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルトキハ市町村會ノ決議ヲ經テ舊區町村ヨリ追徵補充スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算ヲ作リ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ議決ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ追徵補充スヘシ

第十條　不納ニ屬シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徵シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナスヘシ

第十一條　從前郡部ト經濟ヲ異ニセサル區若クハ郡部內ノ市街地ニ市制ヲ施行スルトキハ該市ハ地方稅費目中郡區廳舍建築修繕費竝郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノトス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

◎市町村制ノ最終調査人口

（明治二十三年七月內務省令第三號）

市町村ノ人口ハ毎年十二月末日調査ノ現在數ニ依リ翌年官報ヲ以テ告示シ之ヲ市制町村制ニ記載スル最終調査ノ人口トス但告示ノ後市町村ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更スルトキハ次回ノ告示ヲ爲ス迄ノ間其處分ヲ爲シタル當時ノ調査ニ依ルモノトス

◎新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ事務處辨方

（明治三十年三月內務省令第三號）

第一條　町村制第四條ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村長就職スルニ至ルマテ監督官廳ハ前町村吏員ニ命シ又ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ若クハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ其ノ事務取扱ヲ爲サシムヘシ

前項ニ依リ事務取扱ヲ命シタル前町村ノ吏員及臨時代理者ノ給料(報酬)旅費實費辨償額)等ハ監督官廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條　新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村會成立スルニ至ルマテ始メテ議員ヲ選擧スルニ付町村會ノ議決スヘキ事件ハ郡參事會代ツテ之ヲ議決スヘシ

第三條　新ニ町村ヲ置キタル日ヨリ町村稅徵收ニ至ルマテ其ノ町村必要ノ費用ハ其ノ事務取扱者ニ於テ豫算ヲ設ケ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ費用ハ假ニ町村稅ヲ徵收シテ之ニ充テ又ハ前町村ノ引繼金若クハ一時ノ借入金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條　前條第二項ニ依リ假徵收ヲ爲シタル町村稅ハ追テ町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲スヘシ

第五條　町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ財務ハ實施ノ期日ヲ限リ打切リ決算スヘシ

前項ノ決算ハ其ノ事務ヲ繼承シタル町村長ヨリ其ノ町村會ニ報告スヘシ

第六條　町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村稅其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ニ於テ之ヲ徵收スヘシ

第七條　町村ノ一部ヲ分割シテ新ニ町村ヲ置キ又ハ町村ノ區域ヲ變更シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村稅其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ハ前町村長ノ嘱托ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第八條　町村公民ノ資格要件中其ノ年限ニ關スルモノハ町村ノ廢置分合若クハ境界變更處分ノ爲ニ中斷セラレサルモノトス

第九條　新町村ノ役場位置ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條　町村ヲ變シテ市ト爲シ又ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ市制第四條ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ法令中別段ノ規程アルモノヲ除ク外總テ此ノ省令ノ規程ヲ準用ス

東京都市大阪市ノ特別市制

(明治二十二年三月法律第十二號)

朕市制中東京市京都市大阪市ニ特例ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　東京市京都市大阪市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府知事之ヲ行ヒ助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フ

第二條　東京市京都市大阪市ノ市參事會ハ府知事書記官及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　東京市京都市大阪市ニ於テハ收入役書記其他ノ附屬員ヲ置カス府廳ノ官吏其職務ヲ行フ

第四條　東京市京都市大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ每區ニ區長一名及書記ヲ置キ有給吏員ト爲シ市參事會之ヲ撰任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　東京市京都市大阪市ニ於テハ區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

第六條　東京市京都市大阪市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政並收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七條　東京市京都市大阪市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員撰擧區ト爲ス

◎町村制ヲ施行セサル嶋嶼指定

（明治二十二年一月勅令第一號）

朕町村制ヲ施行セサル嶋嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制第百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル嶋嶼左ノ通指定ス

東京府管下

小笠原嶋　伊豆七嶋

長崎縣管下

對馬國

嶋根縣管下

隱岐國

鹿兒嶋縣管下

大隅國大嶋郡

大嶋　德ノ嶋　喜界嶋　沖永良部嶋　與論嶋

薩摩國川邊郡

硫黄島　黑島　竹島　口之島　臥蛇島　平島　中之島　惡石島

諏訪ノ瀬島　寶島

◎市町村會議員選擧罰則

（明治二十三年五月法律第三十九號）

朕市町村會議員選擧罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村會議員選擧罰則

第一條　凡テ選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧會場ノ近傍若クハ選擧人住來ノ途中ニ於テ選擧人ニ酒食ヲ供シ又ハ選擧會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ノ爲ニ選擧會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條　第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選擧權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條　第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條　選擧人ヲ脅逼シ若クハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　選擧ノ際選擧ニ關スル吏員若クハ選擧掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條　多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條　選擧會場所在ノ郡市内ニ於テ選擧ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ住來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條　被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選擧會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選擧人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無效トス

第十九條　本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條　本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條　本法ハ市町村會ノ外市制町村制竝ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各

種ノ議會ノ議員選擧ニモ適用ス

◎行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬

（明治二十三年四月勅令第七十一號）

朕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政事務又ハ司法事務ニ關シ郡區ヲ以テ其區域ヲ定メタルモノニシテ市制ヲ施行シタル場合ニ於テハ特ニ市ノ屬スヘキ區域ヲ定メタルモノヲ除クノ外左ノ區別ニ隨ヒ其所屬ヲ定ムルモノトス

一　區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市京都市大阪市ニ在テハ仍區ノ區域ニ依ル

二　郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍其從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

三　二郡以上ニ渉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

四　此勅令發布前ニ行ヒタル選擧ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限リ改選ヲ要セス

區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選擧スヘキ縣會議員ノ數ニ增減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常縣會ノ議決ヲ取リ明治二十二年法律第七號第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

◎市町村名及市役所町村役場位置變更方

（明治二十三年八月法律第七十七號）

朕市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

◎郡歲入歲出豫算調製式竝費目流用規定

（明治二十四年四月内務省令第二號）

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條　郡歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歲入歲出豫算ニハ郡會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　數年繼續費（郡制第六十六條第二項）ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

夫役現品ヲ增課スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條　歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキハ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條　各款ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス（明治二十四年内務省令第十三號ヲ以テ條中改正）

各項目豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必要アルトキハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得（明治二十四年内務省令第十三號ヲ以テ條中改正）

（書式ハ之ヲ略ス）

府縣會規則（明治十三年四月第十五號布告）

明治十一年（七月）第十八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事（明治二十三年法律第三十五號府縣制實施後ハ廢止ニ屬ス）

第一章　總則

第一條　府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條　府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トス

第三條　通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事「縣令」ヨリ之ヲ發ス

第四條　臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條　府縣會ノ議決ハ府知事「縣令」認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事「縣令」其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事「縣令」ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ「內務卿」ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ（明治十四年第四號布告ヲ以テ本項追加）

第六條　府縣會ハ每年通常會議ノ始メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事「縣令」ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ意見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務大藏兩卿」ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事「縣令」若クハ其代理人之ヲ說明スヘシ（明治十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加）

第七條　通常會期中議員ノ內二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣內ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務卿」ニ建議シ又ハ府知事「縣令」ニ建議スルヲ得（明治十五年第十號布告ヲ以テ本項改正）但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得（同上法令ニテ本條但書追加）

第八條　府縣會ハ府知事「縣令」ヨリ其府縣內ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條　府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ハ議員ノ內招集ニ應セス又ハ事故ヲ告クスシテ參會セサル者ヲ審查シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事「縣令」ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事「縣令」ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得（明治十四年第四號布告ヲ以テ本項追加）

第二章　選擧

第十條　府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ選フ

每郡區定數ノ外補闕員トシテ十人以下ヲ增選スルヲ得（明治十五年第十號布告ヲ以テ本項追加）

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事「縣令」ニ報告シ府知事「縣令」ハ之ヲ「內務

卿」ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滯在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條　府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣內ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣內ニ於テ地租十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款　瘋癲白痴ノ者

第二款　舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者（同上法令ヲ以テ本項改正）

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以下輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者（同上）

第三款　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款　官吏「教導職」及陸海軍諸卒現役ノ者（同上）

第五款　府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條　議員ヲ選擧スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區內ニ本籍ヲ定メ其府縣內ニ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルル者又陸海軍軍人現役ノ者ハ選擧人タルコトヲ得ス（同上法令ヲ以テ但書改正）

第十五條　（明治二十二年法律第六號ヲ以テ本條廢止）

第十六條　選擧ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選擧會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選擧會ヲ開クコトヲ得

第十七條　（同上）

第十八條　（同上）

第十九條　（同上）

第二十條　一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條　議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條　議長副議長任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條　議員中第十三條ニ揭クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ闕員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ選擧ス（明治十五年第十號布告ヲ以テ本條改正）但補闕員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取リ尙闕員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル（同上法令ヲ以テ但書追加）

第三章　議則

第二十五條　議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條　會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條　府知事「縣令」若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條　會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事「縣令」ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條　議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ渉ルコトヲ得ス

第三十條　議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其强暴ニ渉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章　開閉

第三十一條　府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事「縣令」ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得（明治十七年第二十八號布告ヲ以テ本條改正）

第三十二條　通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事「縣令」ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ「内務卿」ニ報告スヘシ（明治十五年第六十八號布告ヲ以テ本條改正）

第三十三條　會議ノ論説國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事「縣令」ハ會議ヲ中止セシメ「内務卿」ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期内ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事「縣令」ハ更ニ其議定ヲ要セス「内務卿」ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得（同上法令ニテ本條改正）

議員召集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事「縣令」ハ其事由ヲ「内務卿」ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ（同上法令ヲ以テ本項追加）

第一項ノ場合ニ於テ「内務卿」ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事「縣令」ニ於テ地方税經費豫算及徵收方法ヲ定メ「内務卿」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得（同上）

第三十四條　會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ内務卿ハ何レノ時ヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得（明治十四年第四號布告ヲ以テ本條改正）

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ（同上法令ヲ以テ本項追加）

第三十五條　「内務卿」ヨリ解散シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改選スヘシ

第五章　當置委員（明治十三年第四十九號布告ヲ以テ本章ヲ追加ス）

第三十六條　府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ增選シ議員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得（明治十五年第十號布告ヲ以テ本項追加）

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘシ（同上）

第三十七條　常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事「縣令」ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ（同上法令ヲ以テ本項改正）

常置委員ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及

徵收方法ヲ議決シ道ヲ府縣會ニ報告スルヲ得(同上法令ヲ以テ本項追加)

第三十八條　常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事「縣令」ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條　常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條　常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス(同上法令ヲ以テ本條改正)

第四十一條　諮問會ハ府知事「縣令」ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ(同上法令ヲ以テ本條改正)

第四十二條　常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依リテ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條　常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條　府知事「縣令」ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辯明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條　常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條　常置委員ノ任期ハ二箇年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得(同上)

第四十七條　常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事「縣令」之ヲ選任ス(同上)

第四十八條　常置委員ハ三十圓以上八十圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條　常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

◎審理裁定事務手續（明治十四年十月第九十一號達）

今般參事院ヲ被置候ニ付本年二月第六號達審理局ヲ被廢事務手續左ノ通被定候條此旨相達候事

但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ

第一條　本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事「縣令」及府縣會ヨリ裁定ヲ請フ具狀書ハ府知事「縣令」ニ於テ之ヲ取纒メ法制局長官ニ當テ差出スヘシ（明治十八年第七十八號達ヲ以テ參事院議長ヲ法制局長官ト改ム）

第二條　裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉ササルコトアルトキハ府知事「縣令」若クハ其代理人及府縣會總代自ラ法制局ニ出頭シテ之ヲ辯明シ又ハ法制局ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルコトアルヘシ（同上達ヲ以テ參事院ヲ法制局ト改ム）

但府縣會總代ハ其議員タル者ニ限ル

第三條　裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發付スヘシ

◎府縣會市町村及衆議院ノ議員資格ヲ有セサル官吏竝非職休職者議員又ハ市村町ノ吏員タルトキノ手續（明治二十二年六月閣令第十八號）

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選擧法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職

者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

府縣會議員選擧規則（明治二十二年二月法律第六號）

朕府縣會議員選擧規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（明治二十三年法律第三十五號府縣制實施後ハ廢止ニ屬ス）

府縣會議員選擧規則

第一條　戸長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選擧人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選擧人名原簿ニハ選擧人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額竝ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條　郡長ハ戸長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第三條　區長ハ毎年九月才五日ヲ期トシ其役所管内ノ選擧人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

選擧人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條　府縣會規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ選擧人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財産主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條　選擧人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戸長ノ證狀ヲ添ヘ選擧人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戸長ニ屆出ヘシ

前項ノ屆出ヲ爲ササル納稅額ハ選擧及ヒ被選擧ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條　郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選擧人名原簿及ヒ選擧人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戸長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條　選擧資格アル者選擧人名簿ニ於テ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縱覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條　郡區長ニ於テ脫漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第九條　前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條　申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ「始審裁判所」ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條　「始審裁判所」ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條　前條「始審裁判所」ノ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條　選擧人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ據置クモノトス

但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ常人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ選擧ヲ行フ前ニ於テ選擧檻ヲ失ヒ若クハ選擧檻ヲ有セサリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

毎年確定ノ選擧人名簿ハ臨時ノ補闕選擧ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條　選擧投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選擧ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條　議員ヲ選擧スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選擧開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、選擧ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選擧スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

若シ正議員ノ外補闕員ノ增選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選擧開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條　前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並選擧開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日選擧會場ニ參會セシムヘシ

選擧分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選擧人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選擧開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選擧人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條　郡區長ハ選擧會長トナリ選擧會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選擧會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條　選擧人ハ選擧開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到著ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條　選擧會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及選擧錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ

投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選擧人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條　投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヰ投票ノ當日選擧會場ニ備ヘ置キ選擧會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選擧人ニ交付スヘシ

用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ增選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補闕員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條　選擧人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條　選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ被選擧人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ケナシ

第二十四條　選擧人投票ヲ爲サントスルトキハ選擧會長ハ其住所氏名ヲ選擧人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選擧人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條　選擧人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選擧會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條　選擧ニ關スル吏員及ヒ選擧人ノ外何人タリトモ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニアラス

第二十七條　選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條　選擧人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ渉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條　選擧會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選擧會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルルコトヲ得

選擧會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條　選擧權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選擧會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條　投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選擧會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選擧會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セサリシ者ナキヤヲ以テ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條　選擧會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條　投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選擧會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選擧人被選擧人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選擧人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

前項ノ點檢中若シ無效ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無效ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條　選擧人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條　投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選擧會長ハ書記ヲシテ各被選擧人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條　點數記入竝ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選擧會長竝ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條　點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選擧會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ五被選擧權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取リ同年ハ抽籤ヲ用ヰ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス

當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選擧權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ

當選タルヘキ多數ヲ得タル被選擧人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條　點檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選擧會長立會人竝ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間區役所ニ保存スヘシ若シ選擧ニ關シ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條　左ノ事項ハ之ヲ選擧錄中ニ記入スヘシ

一　選擧開會ノ月日竝ニ時刻
二　選擧會長及ヒ書記ノ氏名
三　立會人ノ住所氏名
四　第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顚末
六　投票函閉鎖ノ時刻
七　各被選擧人ノ得點數
八　當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
九　選擧閉會ノ時刻
十　右ノ外選擧會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條　選擧錄ニハ選擧會長立會人竝ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條　當選タルヘキ多數ヲ得タル被選擧人他郡區ノヘナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選擧權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條　左ノ投票ハ無效トス

一　選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニアラス
二　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ
三　選擧人又ハ被選擧人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

四　選擧人ノ氏名ヲ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
五　選擧人被選擧人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニアラス
六　被選擧人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選擧人ニ付テハ仍ホ其效アリトス
七　被選擧權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選擧人ニ付テハ仍ホ其效アリトス

第四十三條　投票ニ記載ノ被選擧人其選擧スヘキ定數ニ足サルモ之ヲ無效トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ルルモノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ

一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條　選擧人又ハ被選擧人ノ住所氏名ニ誤字脫字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人タルヲ選擧シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有效トスヘシ

第四十五條　投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選擧會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選擧會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十六條　郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區內島嶼ノ地アリテ選擧人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選擧分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選擧人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選擧人名簿中ニ各選擧人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域竝ニ開場ヲ管內ニ告示スヘシ

第四十七條　分會ハ本會ト同時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選擧ノ手續會場

ノ取締選擧錄ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ其適宜投票ノ期日ヲ異ニシ選擧本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條　分會選擧會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戸長又ハ戸長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條　分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選擧會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選擧人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條　分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到著ヲ待チ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條　當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ

當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以內ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以內ニ承諾ノ屆出ヲ爲サザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條　選擧ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條　當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管內ニ告示スヘシ

第五十四條　府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ增選スルトキハ其選擧ハ正議員選擧ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條　一人ニシテ正議員補闕員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點ヲ以テ補闕員當選ト爲スヘシ

第五十六條　當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以內ニ府縣知事ニ其更正又ハ選擧取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條　當選者確定ノ後其當選ノ被選擧權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管內ニ告示スヘシ

第五十八條　選擧全會ヲ取消シ更ニ選擧ヲ命スルハ其選擧ノ選擧規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選擧ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニアラス

選擧全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管內ニ示スヘシ

第五十九條　納稅額年齡其他選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者トナリタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲ササル者モ亦同シ

第六十一條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選擧會場ニ入リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條　投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選擧人ヲ恐嚇スル者又ハ選擧ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條　多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條　當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無效トス

第六十六條　選擧權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條　選擧ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條　府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附　則

◉府縣會議員定數規則

（明治二十四年六月勅令第五十九號）

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員定數規則

第一條　府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ增シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ增ス

第二條　前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ每郡市ニ割當選擧スルモノトス

第三條　人口增減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改選期ヲ待テ之ヲ增減スヘシ

第四條　府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ市郡ニ分別シタル府縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ其定數ヲ十名ト爲スヘシ

（明治二十五年勅令第七十六號ヲ以テ本條追加）

◉府縣會議員定數規則ノ人口計算方

（明治二十四年六月内務省訓令第十號）

本年六月勅令第五十九號ニ揭クル人口ハ每年十二月末日ノ現住人口ヲ云フ但在營在艦ノ現役軍人ハ其營所又ハ定繫港所在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ラス選擧人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシ

メ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ選擧ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

◉府縣會議員選擧ニ衆議院議員選擧法罰則補則ヲ適用ス（明治二十三年五月法律第四十一號）

朕府縣會議員選擧ニ衆議院議員選擧法罰則補則ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年二月法律第六號府縣會議員選擧規則ニ依ル選擧ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選擧法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選擧法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選擧規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選擧法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選擧規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

府縣會議員選擧規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ效力ヲ有セス

◉市制ニ係ル府縣會議員選擧及市公民資格（明治二十二年二月法律第七號）

朕市制施行ニ付府縣會議員ノ選擧及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セス

第二條　郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選擧ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ

區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員數ヲ增減スヘキ時ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ增減スルコトヲ得此場合ニ於ハ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其增加スヘキ議員ハ新ニ選擧スヘシ

第三條　郡內ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選擧ノ區域ハ之ヲ變更セス其選擧事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選擧ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條　郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條　郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

◉府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選擧區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣急施事業ニ

關スル諸件（明治二十三年九月法律第八十五號）

朕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選擧區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若クハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ增減セス其ノ補闕選擧ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第二條　郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ增減セス其ノ補闕選擧ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第三條　府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歲入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ從前府縣會議決ノ效ヲ存ス

第四條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス

第五條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス

第六條　郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條　府縣制郡制施行ノ後府縣參事會就職ニ至ルマテノ間其職務ニ關スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

◉郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選擧ニ關スル件（明治三十年六月勅令第二百二十七號）

朕郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員選擧ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　郡制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ島嶼內各郡ヲ通シテ之ヲ一選擧區トシ其ノ選出ノ府縣會議員定數ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二條　帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且滿二十五歲以上ノ男子ニシテ一戶ヲ構ヘ島嶼內ニ二年以來住居シ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且滿二十五歲以上ノ男子ニシテ一戶ヲ構ヘ島嶼內ニ二年以來住居シ府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選擧權ヲ有ス

府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選擧權ヲ有ス

左ニ揭ケル者ハ府縣議員ノ選擧權被選擧權ヲ有セス

一　治產ノ禁ヲ受ケタル者

一　公權停止中又ハ租稅滯納處分中ノ者

一　家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ノ決定ヲ得サル者

一　公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレ其裁判ノ確定ニ至ラサル者

一　陸海軍ノ現役ニ服スル者又ハ現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタル者

本條ノ外府縣會議員ノ選擧ニ關シテハ府縣制第四條第三項乃至第五項ヲ適用ス

第三條　戸長ハ毎年九月一日ヲ期トシ其現在資格ニ依リ其ノ役場管内ノ選擧人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ島司ニ送付スヘシ

島司ハ戸長ヨリ送付シタル選擧人名簿ヲ合シ毎年十月二十日マテニ其ノ所管内ノ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第四條　選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名住所生年月竝ニ直接國税年額及其ノ納税地其ノ他選擧資格ノ要件ヲ記載スヘシ

第五條　選擧人其ノ住居スル戸長役場管外ニ於テ直接國税ヲ納ムルトキハ其ノ納税地戸長又ハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ九月一日マテニ其ノ住居地ノ戸長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サザルトキハ其ノ納税額ハ選擧資格ニ算入セス

第六條　島司ハ十月二十五日ヨリ十五日間島廳ニ於テ選擧人名簿ノ寫ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

關係者ニ於テ選擧人名簿ニ關シ異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ島司ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ島司ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定シ申立人ニ通知スヘシ島司ニ於テ修正スヘシト決定シタルトキハ選擧人名簿ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月二十日マテ之ヲ據置クモノトス

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選擧ニ干與スルコトヲ得ス

本條島司ノ決定ニ不服アル者ハ決定ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其ノ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ行政裁判所ノ判決アリタルニ依リ選擧人名簿ノ修正スヘキモノアルトキハ島司ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ島司ニ於テ選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ公告シ且本人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第七條　選擧ノ效力ニ關スル訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ選擧人名簿ノ無效ト爲リタルトキハ前選擧人名簿ニ記載スヘキ選擧人資格ニ依リ府縣知事ノ指定シタル期日マテニ新ニ名簿ヲ調製スヘキモノトス其ノ縱覽修正ニ關スル期限等ハ總テ前條ノ例ヲ準用ス

第八條　府縣會議員ノ選擧ハ島司之ヲ管理スヘシ

第九條　府縣知事ハ投票ヲ行フヘキ日ヨリ少クトモ三十日前其ノ日時ヲ告示スヘシ

天災若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ更ニ投票ヲ行フ場合ニ於テハ府縣知事ハ島司ヲシテ其ノ日時ヲ定メ之ヲ告示セシムヘシ

島嶼内交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ島司ヲシテ適宜投票ノ期日ヲ變更セシムルコトヲ得

第十條　戸長役場所轄區域ヲ以テ投票所區域ト爲ス

投票所ハ戸長役場又ハ戸長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ戸長其ノ事務ヲ管理スヘシ

島司ハ事情ニ依リ數戸長役場區域ヲ以テ一投票所區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ島司ハ投票所竝投票所管理ノ戸長ヲモ指定スヘシ

第十一條　戸長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ選任スヘシ

第十二條　選擧人ノ外何人タリトモ投票所ニ入ルコトヲ得ス

選擧人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ選擧人自ラ投票函ニ投入スヘシ

投票ニハ選擧人自ラ投票所ニ於テ被選擧人ノ氏名ヲ記シ次ニ自己ノ氏名及住所ヲ記シテ捺印スヘシ

第十四條　選擧人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ戸長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票錄ニ記載スヘシ

第十五條　戸長ハ投票錄ヲ製シ投票ニ關スル顚末ヲ記錄シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第十六條　投票ヲ終リタルトキハ戸長ハ一名ノ立會人ト共ニ投票函及投票錄ヲ選擧會場ニ護送スヘシ

第十七條　選擧會ハ島廳又ハ島司ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ク

第十八條　島司ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選擧掛三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第十九條　島司ハ選擧掛長ト爲リ投票函ノ總テ送達シタル翌日選擧掛立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選擧錄ニ記載スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選擧掛長ハ選擧掛ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十條　選擧人ハ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條　投票ニ記載シタル人員其ノ選擧スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其ノ投票ヲ無效トセス其ノ定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ

左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　被選擧人ノ氏名讀ミ難キモノ

二　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載スルモノ

以上三種ノ投票中他ニ列記ノ被選擧人ニ付テハ仍其ノ效アルモノトス

四　選擧人被選擧人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

五　選擧人ノ氏名讀ミ難キモノ

六　選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

七　選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票

八　第十三條第三項ニ規定シタル外他事ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ無效ト爲ス限ニアラス

九　投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

第二十二條　投票ノ效力ニ關スル事項ハ選擧掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧掛長之ヲ決ス

第二十三條　議員ノ選擧ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ選擧掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第二十四條　選擧掛ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記錄シ之ニ署名捺印シ選擧人名簿投票錄其ノ他關係書類ト共ニ少クトモ四年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ之ヲ選擧錄ニ附屬シ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十五條　二人以上投票同數ニシテ年長ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ依テ當選セサリシ者ヲ以テ當選人トス但年少ニ依テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ第二十三條第一項ノ例ヲ適用ス

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選人トス但抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選擧掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

第二十六條　選擧ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ島司ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其ノ當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日以內ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ屆出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選擧ニ當リタルトキハ同期限內ニ何レノ選擧ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ屆出ヘシ

前二項ノ屆出ヲ其ノ期限內ニ爲ササルトキハ總テ選擧ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第二十七條　當選人其ノ當選ヲ辭シタルトキハ府縣知事ハ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

第二十八條　府縣會議員ノ選擧ニ關シテハ衆議院議員ノ選擧ニ關スル罰則ヲ適用ス

第二十九條　此ノ勅令施行ノ爲必要ナル命令ハ內務大臣之ヲ定ムヘシ

◎同上法則ノ施行ニ關スル件

（明治三十年八月內務省令第三十四號）

本年勅令第二百二十七號ニ依ル府縣會議員ノ選擧人名簿ハ初メテ府縣制ヲ施行スル府縣ニ於テ第三條乃至第六條ノ期日ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ別ニ期日ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ得施行スルコトヲ得

◎區郡部會規則

（明治十四年二月第八號布告）

東京府京都府大阪府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年（五月）第二十六號及第二十七號布告廢止候條此旨布告候事（明治二十三年法律第三十五號府縣制實施後ハ廢止ニ屬ス）

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設クタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スルコトヲ得（明治十四年第二十號布告ヲ以テ但書追加）

第一條　三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條　區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件ハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條　府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ增加ヲ要スルトキハ府知事「縣令」ヨリ「內

務卿」ニ具狀シ其認可ヲ於テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條　府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條　府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付ハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條　（明治十五年第十二號布告ヲ以テ本條削除）

第七條　（同上）

第八條　明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條　區部ニ係ル戶數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋稅ト爲スコトヲ得（同上法令ヲ以テ本條追加）

地方稅ニ關スル寄附及ヒ雜收入ハ府縣會ノ議定ニ付ス（明治二十年十一月勅令第五十六號）

朕地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ費用ニ充ツヘシ

第二條　地方稅ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條　本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員ニ關スル件（明治二十七年二月勅令第十一號）

朕市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學委員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ小學教育事務ノ爲ニ小學校設置區域ニ學務委員ヲ置クコトヲ命スルコトヲ得

第二條　學務員員ニ關スル費用ハ關係區域ノ負擔トス

第三條　學務委員ノ組織任免及其ノ他必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

尋常中學校高等女學校技藝學校設置ノ爲メ町村學校組合設置方（明治二十六年五月勅令第三十三號）

朕尋常中學校高等女學校技藝學校設置ノ爲メ町村學校組合會ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　町村ハ尋常中學校高等女學校又ハ技藝學校ヲ設置センカ爲メ町村制第百十六條第一項ニ依リ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制第百十八條ニ依ル

第二條　前條ノ場合ニ於テ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

◎高等「中」學校設置區域內府縣委員會規則

（明治二十年九月勅令第四十六號）

朕高等「中」學校設置區域內府縣委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等「中」學校設置區域內府縣委員會規則

第一條　委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等「中」學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ學校設置區域內各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以內トス但各府縣知事協議ノ上內務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スルコトヲ得

第二條　委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ

第三條　委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第四條　委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其廳ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第五條　委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ

第六條　府縣會規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條項中府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

◎高等中學校經費支辨方

（明治二十年八月勅令第四十號）

朕高等中學校經費支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ該學校設置區域內ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ內文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ査定シ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定ス可シ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

◎府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合

（明治二十一年八月勅令第六十一號）

朕地方稅中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條　地方稅中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ四トシ其他ノ府縣（沖繩縣ヲ除ク）ハ六分ノ一トス

第二條　前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ傭內外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條　本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

◎集治監ニ入ルヘキ囚徒並其費用區分

（明治十四年三月第十七號布告）

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ內左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條　集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費用（府縣獄

ニ拘留中ノ費用竝ニ集治監ニ押送ノ費用トモ）ハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條　府縣試ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方税ヲ以テ支辨スヘシ

◉府縣委托金ヲ地方税經濟ニ移ス

（明治二十三年三月勅令第六十六號）

朕府縣委托金ヲ地方税經濟ニ移スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　從來府縣廳ニ存在スル府縣委托金及之ニ屬スル財産ハ明治二十三年三月三十一日ノ現況ヲ以テ其府縣ノ地方税經濟ニ下付スヘシ

第二條　府縣委托金ニ關シ從前府縣知事ニ於テ契約シタルモノハ其契約ヲ繼續シ從前府縣知事ヨリ發シタル命令ハ之ヲ履行スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ内務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之カ命令ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條　元金ハ務メテ之ヲ保存スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ内務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之ヲ支消スルコトヲ得ス

第四條　元金ヨリ生スル利子ハ府縣會ノ議決ニ依リ公共ノ勸業費途ニ充用シ又ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得

第五條　府縣委托金中獻金又ハ寄附金等ヨリ成立ツモノニシテ當初使用ノ途ヲ指定シタルモノハ將來ト雖モ其使用ノ途ヲ變スルコトヲ得ス

第六條　府縣委托金ノ種類ハ大藏大臣之ヲ府縣ニ達スヘシ

◉沖繩縣及小笠原島地方費支辨法

（明治二十三年五月法律第三十七號）

朕沖繩縣及小笠原島地方費ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

沖繩縣及小笠原島ノ地方經濟ニ屬スル費用ハ其地方人民ノ負擔スルモノヲ除クノ外從前ノ通リ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

◉地方税經濟ニ於テ臨時土木費ノ爲ニ起債及地租制限外賦課ノ件

（明治二十九年三月法律第六十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方税經濟ニ於テ臨時土木費ノ爲ニ起債及地租制限外賦課ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要シ地方税ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得三十箇年以内ノ償還期限ヲ定メ公債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但償還ノ初期ハ三年以内トスヘシ

第二條　府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要スル場合ニ於テ府縣知事必要ナリト認ムルトキハ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ地租三分一ヲ超過スル地方税ヲ土地ニ賦課スルコトヲ得

第三條　第一條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其ノ府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其ノ年度初現在高ノ三分一マテ借入ルルコトヲ得但本條ノ借入金ニ對シテ

モ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ常置委員ヲシテ府縣會ニ代テ議決ヲ爲サシムルコトヲ得常置委員ハ其ノ議決ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第四條　第一條ノ認可ヲ得ムトスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル公債募集ノ方法又ハ借入ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第六條　明治二十三年法律第三號及法律第七十四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎備荒儲蓄法（明治十三年六月第三十一號布告）

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度（明治十四年一月一日）ヨリ施行候條明治八年（七月）第百二十二號達窮民一時救助規則及同十年（九月）第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

（別紙）

備荒儲蓄法

第一條　備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ料食小屋掛料農具料種籾料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租（國稅ノ部分ニ限ル）ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條　備荒儲蓄金ヲ分ツテ中央儲蓄金府縣儲蓄金ノ二トス（明治二十三年法律第五號ヲ以テ全

條改正）

中央儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ中央儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス府縣儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ府縣儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス

第三條　中央府蓄金ハ國庫ニ備置キ大藏大臣之ヲ管理シ府縣儲蓄金ノ補助ニ充ツヘキモノトス（同上法律ヲ以テ改正）

第四條　府縣儲蓄金ノ管守支給及ヒ利殖ノ方法ハ府縣知事之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩大臣ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ（同上）

第五條　（同上法律ヲ以テ本條改正）

第六條　府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超コヘカラス

第一　食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給ヘルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二　地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地組ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條　各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金百分ノ五以上ヲ供用支出スルトキハ府知事「縣令」ノ具申ニ依リ「内務大藏兩卿」ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ（同上法律ヲ以テ三分二トアリシヲ百分ノ五ト改ム）

第八條　從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條　各府縣内儲蓄金ノ出納ハ「大藏卿」歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條　府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ仍ホ內務大藏兩大臣ニ報告スヘシ（同上法律ヲ以テ全除改正）

大藏大臣ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ

第十一條　此方法ハ二十箇年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

附　則（同上法律ヲ以テ本則追加）

本法改正ノ爲メ府縣儲蓄金明治二十三年度內ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ及ヒ收入豫算又ハ管守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ常置委員會ニ付シ之ヲ議決セシムルコトヲ得

地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分

（明治二十二年十二月法律第三十三號）

朕地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方稅及備荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但備荒儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者ハ備荒儲蓄金ヲ免除スヘシ

明治十三年十一月第五十號布告ハ廢止ス

米穀供給ノ爲メ中央備荒儲蓄金運用方

（明治二十三年四月法律第三十三號）

朕米穀供給ノ爲メ中央備荒儲蓄金運用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ハ國內米穀供給ノ爲メ必要アルトキハ中央備荒儲蓄金ヲ以テ米穀購入ノ資金ニ運用スルコトヲ得此場合ニ於ケル損益ハ中央備荒儲蓄金ノ負擔トス

國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件

（明治三十年三月法律第三十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ法方等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

第二條　前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條　此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

◉水道條例（明治二十三年二月法律第九號）

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

第一條　水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水池濾水場、喞水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條　水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第三條　市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一　水道事務所ノ所在地

第二　水源ノ位置（河川池湖又ハ堀井ノ別其周圍ノ概況）及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ

第三　水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、喞水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

第四　給水ノ區域其人口一日ニ對スル平均給水量

第五　人口增殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量增加ノ見込

第六　水壓ノ概算

第七　工事方法

第八　起工竣工期限

第九　工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

第十　水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支概算

第四條　內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ

第五條　水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス

第六條　官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條　水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ檢査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

第九條　市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ屆出監査ヲ受クヘシ

第十條　水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ檢査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

第十一條　家屋內ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接續スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス

第十二條　市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ內ニ於テ家屋內ノ給水用具ヲ檢査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十三條　市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋內ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ

家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條　家主ハ家屋內給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ屆出ヘシ

水道掛ハ速ニ之ヲ檢査スヘシ

第十五條　市町村ハ一家專用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノノ爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ

第十六條　市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徵收スヘカラス

◉水利組合條例（明治二十三年六月法律第四十六號）

發水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合條例

第一章　總則

第一條　府縣或又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條　水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一　普通水利組合

二　水害豫防組合

第三條　普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條　水害豫防組合ハ水害豫防禦ノ爲ニ堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノノ爲設置スルモノトス

第五條　水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條　二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ內務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章　組合ノ設置及廢止

第七條　普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條　普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一　組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

二　組合業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條　前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條　第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ內一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條　創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若クハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半數ニ依ル

第十二條　創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請

フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨竝其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ニ告示スヘシ

第十三條　普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條　水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域內ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條　水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域內ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條　府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ開キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條　府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ內一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總議會ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條　水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但

書ノ例ニ依ル

第三章　水利組合ノ會議

第十九條　水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條　組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選擧スヘシ議員ノ數、資格、任期及選擧ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　組合會ノ議決スヘキ事件概目左ノ如シ

一　組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二　組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三　組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四　組合ニ屬スル財產ノ賣買、交換、讓渡、讓受竝賃入、書入ヲ爲ス事

五　豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條　組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行竝收入支出ノ正否ヲ監查スルコトヲ得

第二十三條　議員選擧ノ效力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合ノ區域二府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於

テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條　組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遲クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條　組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條　組合會ノ議決ハ過半數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條　組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四章　組合ノ管理

第二十九條　水利組合ハ其組合ノ區域一市町村内ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡若ハ數郡ニ渉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條　水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ渉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ

第三十一條　管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關

スル費用亦同シ

第三十二條　管理者職務ノ概目左ノ如シ

一　組合一切ノ事務ヲ管理スル事

二　組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘシ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ渉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ其組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

三　組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五　外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條　管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結ヒ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條　組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ傭員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ傭員ハ

管理者之ヲ任用ス

委員又ハ傭員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章　組合ノ會計

第三十五條　普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但負擔アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限リ之ヲ賦課スヘシ

第三十六條　組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年據置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十七條　組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條　組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其區域內ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條　普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第四十條　組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條　組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ

年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條　管理者ハ每會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十三條　歲入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條　決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以內ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次同ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書竝ニ之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章　水利組合ノ監督

第四十五條　水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ內務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣之ヲ監督ス

第四十六條　此法律中別段ノ規定アルモノノ外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合ノ區域二府縣以上ニ涉ル場合ニ於テハ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條　賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徵收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以內ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條　水利組合會ハ內務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以內更ニ議員ヲ選擧スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條　監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ竝實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルコトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其費費ヲ追徵スルコトヲ得

第五十條　組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ不動產ノ賣却、交換、讓渡又ハ賃入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限竝利息ノ定率ヲモ併テ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條　水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲メ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シ代テ決定シムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選擧セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條　水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條　監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキハ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域內ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シ防禦ニ從事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條　水利組合管理者及其事務ニ服從スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第百二十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第百二十九條ヲ適用ス

第七章　附則

第五十五條　府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參

事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條　此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條　此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之ヲ施行ス

◎東京市區改正條例（明治二十一年八月勅令第六十二號）

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等ノ永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例

第一條　東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ内務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

第三條　市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府「區」部内ニ於テ左ノ特別税ヲ賦課ス

一　地租割　地租同額以内但耕地ヲ除ク

一　營業税並雜種税　地方税十分ノ四以内

一　家屋税　同上

一　清酒　區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スル者一石ニ付五十錢以内

第四條　特別税滯納者ハ租税滯納處分法ニ依テ處分ス

第五條　市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府「區」部ノ基本財産トシテ即今官用ニ供セサル東京府「區」部内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府「區」部會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條　市區改正ノ經費及特別税賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府「區」部會ニ付シ之ヲ議決セシムヘシ

第七條　第三條第二條ノ收入合計ハ毎年度三十萬圓ヨリ少カラス五十萬圓ヨリ多ラサルモノトス

但毎年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額ニ合算スルコトヲ得ス

第八條　（明治二十三年八月勅令第百六十九號ヲ以テ本條削除）

第九條　東京府知事ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテ一周年度トシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立テ東京府「區」部會ノ議決ヲ取リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受タルトキハ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條　東京府知事ハ一周年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府區部會ニ報告シ然ル後內務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告ス

第十一條　年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルトキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議定ヲ取リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府區部會ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條　市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府「區」部ハ每年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以內ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　市區改正ニ關スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ

第十四條　市區改正ノ事務ハ東京府知事其執行ノ責ニ任スヘシ

第十五條　市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

◎東京市區改正土地建物處分規則

（明治二十二年一月勅令第五號）

朕東京市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正土地建物處分規則

第一條　市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其他ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ關スルモノハ民有ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當代價又ハ移轉料ヲ下付ス

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ內務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條　市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條　市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ「曩ニ公用土地買上規則」又ハ本則第一條ニ依リ買上ケタルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受クルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條　東京府知事ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築增築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限內ト雖トモ新築增築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受クヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セサルトキハ新築增築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其土地自已ノ所有ニ在サルトキハ通知ヲ以テ其土地貸借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築增築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築增築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條　土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

◎東京市區改正ニ關スル事務引繼方

（明治二十三年八月勅令第百七十號）

朕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　東京市改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ノ規定ニ依リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京府市參事會ニ屬スルモノハ東京市會ニ之ヲ屬セシム

第二條　市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財產トシテ下付シタル河岸地ハ東京市ニ引繼クヘシ

第三條　明治二十三年度東京市區改正ノ收支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京市ニ於テ之ヲ存續スヘシ

◎大阪築港工事費補助ノ爲メ國有濱地下付ノ件

（明治三十年三月勅令第七十二號）

朕大阪築港工事費補助ノ爲メ該市內國有濱地ヲ下付スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　大阪築港工事費ヲ補助スル爲メ大阪市內ノ國有濱地ニシテ公用ニ供セサルモノハ之ヲ大阪市ニ下付スルコトヲ得

濱地ト稱スル土地ノ區域竝ニ公用ニ供スルト否トノ區分ハ內務大臣之ヲ定ム

第二條　此ノ勅令ニ依リ下付セラレタル濱地ハ大阪市ニ於テ之ヲ賣拂ヒ其ノ賣拂代金ハ之ヲ大阪築港工事費ニ充用スルコトヲ要ス

第三條　此ノ勅令ニ依リ下付セラレタル濱地ニ付キ其ノ下付以前ニ爲シタル貸付契約ニ依リテ國ノ有スル權利義務ハ總テ大阪市ニ移轉ス

第四條　大阪市ニ於テ此ノ勅令ノ規程ニ違背シタルトキハ內務大臣ハ下付地ノ全部若ハ一部ヲ返納セシメ又ハ之ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付セシムルコトヲ得

大阪築港工事ヲ中途ニテ廢止シタル場合ニ於テハ前項ヲ準用ス

第五條　此ノ勅令ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

第三十二類　官制

◎樞密院官制及事務規程（明治二十一年四月勅令第二十二號）

朕元勳及練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

樞密院官制

第一章　組織

第一條　樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條　樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人書記官長一人書記官三人ヲ以テ組織ス（明治二十六年勅令第百二十號ヲ以テ書記官ノ員數ヲ改ム）

第三條　樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條　何人タリトモ年齢四十歲ニ達ヤタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條　議長ハ書記官ノ内ヲ以テ祕書官ヲ兼子シムルコトヲ得

第二章　職掌

第六條　樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス（明治二十三年勅令第二百十六號ヲ以テ全條改正）

一　皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二　憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義
三　憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令
四　列國交渉ノ條約及約束
五　樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項
六　前諸項ニ掲クルモノノ外臨時諮詢セラレタル事項

第七條　前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ

第八條　樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

第三章　會議及事務

第九條　樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條　樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條　各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス

第十二條　樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條　議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條　書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辯明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席ノ姓名會議ノ事件質問答辯及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十五條　特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必用ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル後ニ非レハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條　樞密院ハ勅令ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ付意見ヲ述フ

第二條　樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條　樞密院ハ內閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條　議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條　審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條　議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條　審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條　件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條　樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條　樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリト雖モ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム（明治二十三年勅令第二百十六號ヲ以テ本項改正）

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條　議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條　樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閲ヲ

請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條　前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條　樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

◎内大臣宮中顧問官及内大臣祕書官制

（明治十八年十二月第六十八號達）

宮中ニ内大臣並宮中顧問官及内大臣祕書官ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

内大臣　一人　親任

一　御璽國璽ヲ尚藏ス

二　常侍輔弼シ及宮中顧問官ノ議事ヲ總提ス

宮中顧問官　十五人以内（一等、二等）

帝室ノ典範儀式ニ係ル事件ニ付諮詢ニ奉對シ意見ヲ具上ス

内大臣祕書官　一人又ハ二人　奏任

内大臣ニ專屬ス

◎文事祕書局官制（明治二十三年十二月宮内省達第二十三號）

宮中ニ文事祕書局ヲ置キ其官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

文事祕書局官制

第一條　文事祕書官長　一人　一等二等

旨ヲ奉シ文事ニ關スル內廷ノ文書ヲ管掌ス

第二條　文事祕書官　二人　二等以下

官長ノ指揮ヲ承ケ文書ヲ掌理ス

第三條　闕　判任

◎戰時大本營條例（明治二十年五月勅令第五十二號）

朕戰時大本營條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰時大本營條例

第一條　天皇ノ大纛下ニ最高ノ統帥部ヲ置キ之ヲ大本營ト稱ス

第二條　大本營ニ在テ帷幄ノ機密ニ參與シ帝國陸海軍ノ大作戰ヲ計畫スルハ參謀長ノ任トス

第三條　幕僚ハ陸海軍將校ヲ以テ組織シ其人員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四條　大本營ニハ各機關ノ高等部ヲ置キ大作戰ノ計畫ニ基キ其事務ヲ統理セシム

◎參謀本部條例（明治二十九年五月勅令第二百一號）

朕參謀本部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

參謀本部條例

第一條　參謀本部ハ國防及用兵ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル所トス

第二條　參謀總長ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ親補シ

天皇ニ直隸シ帷幄ノ軍務ニ參畫シ國防及用兵ニ關スル一切ノ計畫ヲ掌リ又參謀本部ヲ統轄ス

第三條　參謀總長ハ國防ノ計畫及用兵ニ關スル命令及條規ヲ立案シ　親裁ノ後之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第四條　參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統督シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校、陸地測量部及在外國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス

第五條　參謀本部次長ハ參謀總長ヲ輔佐シ部務整理ノ責ニ任ス

第六條　參謀本部ニ副官部ヲ置キ部內ノ庶務、人事、記錄及經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理ス

第七條　參謀本部ニ第一部、第二部、第三部、第四部及編纂部ヲ置キ其各部長ヲシテ左ニ掲クル事務ヲ分擔シ其責ニ任セシム

第一部

作戰

要塞位置ノ撰定及其兵器彈藥

團隊布置

第二部

動員

平戰兩時團隊編制

兵器材料彈藥裝具
戰時諸條規
第三部
外國ノ軍事及其地理
諜報
軍事統計
第四部
運輸交通
軍用通信
編纂部
戰史
內外兵要地誌及政誌
翻譯

第八條　豫メ擔任ヲ定メサル事項ハ臨時其部ヲ指定シ若クハ部員ニ下令シ其事ニ與ラシム

參謀職制（明治二十一年五月勅令第二十五號）

朕「陸軍參謀本部條例」參謀職制陸地測量部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（明治二十二年勅令第二十六號ヲ以テ陸軍參謀トアリシ陸軍ノ二字ヲ削ル以下倣之）

參謀職制

第一條　參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス

第二條　參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ參謀本部監軍部近衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム（同上法令ヲ以テ本條改正）

第三條　參謀本部ノ參謀將校ハ參謀總長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫竝外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス（同上）

第四條　監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス

第五條　近衛及師團參謀將校ハ「都督」師團長ニ隸シ該司令部ノ事務殊ニ師團出戰整備竝機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス

第六條　參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス

第七條　參謀ノ職ニ輔シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ撰拔ス

其一　陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ

其二　全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ本職ニ適任ナルモノ

第八條　參謀將校ハ時時軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナレハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム

第九條　參謀將校ヲシテ職務ニ完熟セシムル爲メ參謀本部監軍部ノ參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ便宜交任セシムルヲ法トス

第十條　參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス

（參謀官定員表ハ之ヲ略ス）

軍事參議官條例（明治二十六年五月勅令第三十五號）

朕軍事參議官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　軍事參議官ハ之ヲ帷幄ノ中ニ置キ軍事ニ關スル機務ニ參議セシム

第二條　軍事參議官ハ左ノ如シ

陸軍大臣
海軍大臣
參謀總長
監軍
海軍軍令部長

第三條　凡ソ事陸海兩軍ニ關スルモノハ各參議官ヲシテ其議ニ參セシメ陸軍ノミニ關スルモノハ陸軍大臣參謀總長監軍海軍ノミニ關スルモノハ海軍大臣海軍軍令部長ヲシテ其議ニ參セシム

都督部條例（明治二十九年八月勅令第二百八十二號）

朕都督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

都督部條例

第一條　都督ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ補シ天皇ニ直隸シ所管內ノ防禦計畫竝ニ所管內各師團共同作戰ノ計畫ニ任セシム但防禦ニ關シ特ニ規定アルモノハ此限ニアラス

第二條　都督ハ所管內各師團動員計畫ノ整否ヲ監視ス

第三條　都督ハ所管內各師團ノ教育ヲシテ齊一ニ進歩セシムルノ責ニ任ス但騎砲工輜重兵科專門ノ事ヲ除ク

第四條　都督ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ隨時所管內團隊ノ檢閲ヲ行フ

第五條　都督ハ主任ノ事ニ關シ所管內ノ各師團長ニ訓令若クハ訓示ヲ與ヘ且必要ノ報告ヲ爲サシムルヲ得

第六條　都督ハ部內ノ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、防禦作戰竝ニ動員計畫ニ關シテハ參謀總長、軍隊教育ニ關シテハ監軍ノ區處ヲ受ク

第七條　都督ハ防禦作戰竝ニ動員ニ關スル事項ハ參謀總長ヲ經、軍隊教育ニ關スル事項ハ監軍ヲ經テ奏上ス

第八條　都督部ニ幕僚ヲ置キ之ヲ參謀部副官部ニ分ツ

第九條　參謀長ハ都督ヲ補佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第十條　幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス

附則

第十一條　本條例實施ノ期限ハ陸軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム（明治二十九年陸軍告示第十五號ヲ以テ十月十四日ヨリ施行ス）

監軍部條例（明治二十九年五月勅令第二百九號）

朕監軍部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監軍部條例

第一條　監軍部ハ陸軍軍隊練成ノ齊一進歩ヲ規畫スル所トス

第二條　陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ以テ監軍ニ親補シ　天皇ニ直隷セシム

第三條　監軍ハ部事ヲ總理シ教育ニ關スル諸條規典範ヲ調査シ陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍中央幼年學校、陸軍地方幼年學校、陸軍教導團ヲ管轄ス

第四條　監軍ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ　勅ヲ奉シテ檢閲使トナリ軍隊ノ檢閲ヲ行フ

第五條　監軍部ニ幕僚竝騎、砲、工、輜重ノ各兵監部ヲ置キ幕僚ヲ分テ參謀部及副官部トナス

第六條　參謀長ハ幕僚ヲ統ヘ監軍ヲ補佐シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　幕僚ノ參謀及副官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ事務ヲ分擔ス

第八條　騎兵監ハ各騎兵隊及教導團騎兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス

第九條　野戰砲兵監ハ各野戰砲兵隊、砲工學校學生及教導團砲兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又重戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス

第十條　要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊及砲工學校學生ノ教育上本科專門ノ事ニ付キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス

第十一條　工兵監ハ各工兵隊砲工學校學生及教導團工兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル

第十二條　輜重兵監ハ各輜重兵隊及教導團輜重兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル

第十三條　各兵監ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ臨時ニ當該兵隊ノ檢閲ヲ行フ

第十四條　各兵監副官ハ各其兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス

第十五條　監軍部ニ書記トシテ下士竝ニ陸軍屬ヲ置ク

◎海軍軍令部條例（明治二十九年三月勅令第五十九號）

朕海軍軍令部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍令部條例

第一條　海軍軍令部ハ之ヲ東京ニ置ク國防及用兵ノ計畫ヲ掌リ教育、訓練ヲ監督ス

第二條　海軍軍令部ニ部長ヲ置キ海軍大將若クハ中將ヲ以テ之ニ親補シ　天皇ニ直隷シ帷幄ノ機務ニ參シ部務ヲ管理セシム

第三條　海軍軍令部長ハ海軍軍令部ニ關スル事ヲ掌リ之カ參畫ヲ爲シ親裁ノ後海軍大臣ニ移ス

第四條　海軍軍令部ニ副官ヲ置キ海軍少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ海軍軍令部長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌理セシム

第五條　海軍軍令部ニ第一局第二局及諜報課ヲ置ク

第六條　第一局ニ於テハ作戰、沿岸防禦、艦隊軍隊ノ編制及軍港要港ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　第二局ニ於テハ出師準備、艦隊、艇隊運動程式信號書諸操典ノ制定、教育、訓練、檢閲及海運ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　諜報課ニ於テハ諜報、翻譯及編纂ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　第一局第二局及諜報課ニ左ノ職員ヲ置ク

第一局

局長　海軍大佐

局員　海軍少佐、大尉及陸軍佐尉官(參謀本部ノ陸軍參謀將校ヲ以テ補兼ス)

第二局

局長　海軍大佐

局員　海軍少佐、大尉及陸軍佐尉官(參謀本部ノ陸軍參謀將校ヲ以テ兼補ス)

前記ノ外第二局ニ海軍機關少監若クハ大機關士ヲ置ク

諜報課

課長　海軍少佐

課員　海軍大尉

前記ノ外諜報課ニ海軍編修ヲ置ク

第十條　局長課長ハ海軍軍令部長ノ命ヲ受ケ其ノ局課ノ事務ヲ掌理ス

第十一條　局員、課員、海軍機關少監、大機關士及海軍編修ハ所屬局課長ノ命ヲ受ケ務服ス

第十二條　海軍軍令部出仕トシテ必要ニ應シ海軍佐官同相當官及海軍大尉同相當官ヲ置キ海軍軍令部長ノ命ヲ受ケ服務セシムルコトヲ得

第十三條　在外帝國公使館ニ公使館附將校トシテ海軍佐官若クハ海軍大尉ヲ置キ海軍軍令部長ヲシテ之ヲ管セシム

第十四條　海軍軍令部ニ海軍文庫主管ヲ置キ海軍大尉ヲ以テ之ヲ補シ先任副官ノ命ヲ受ケ祕密圖書ノ保管、出納及海軍ニ必要ナル圖書ノ蒐集、保存及出納ヲ掌ラシム

第十五條　前諸條ニ揭クル職員ノ外海軍船匠師、海軍編修書記及書記、技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ受ケ服務セシム

第十六條　海軍軍令部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十七條　本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

(別表)

㊙防務條例

(明治二十八年一月勅令第八號)

朕防務條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

防務條例

要領

第一條　本條例ハ陸海軍協同作戰ノ指揮及其任務ヲ規定ス

第二條　首府及永久ノ目的ヲ以テ海岸ニ建設シタル防禦地點ノ作戰ハ陸海軍協同シテ之ニ任スト雖モ陸海兩軍ノ性質ニ因リ各自專任スヘキモノアリ其區別概子左ノ如シ

甲　陸軍ノ擔任

其一　陸地警戒勤務
其二　陸地防禦工事
其三　諸砲臺ノ勤務
其四　堡壘通信勤務

乙　海軍ノ擔任

其一　海上警戒勤務
其二　海中障碍物、水雷ノ布設及之ニ關スル諸勤務
其三　艦船若クハ水雷艇ヲ以テスル諸勤務
其四　海上通信勤務

司令權

第三條　首府及永久ノ目的ヲ以テ建設シタル海岸防禦地點ノ防禦ヲ四種ニ分ツ

其一　東京防禦

東京防禦ハ東京防禦總督ヲシテ要塞司令官、師團長(若クハ野戰隊指揮官)及横須賀鎮守府司令長官ヲ統ヘ東京防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

東京防禦總督部ノ編制及平時ノ業務ハ別ニ定ムル所ニ依ル

總督幕僚中ニハ海軍參謀ヲ兼務セシメ諸計畫指揮ニ遺算ナカラシムヘシ

横須賀鎮守府司令長官ハ軍港ノ直接防禦ニ關シ横須賀堡壘團守備諸兵及海軍各部ヲ統ヘ軍港防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮ス

鎮守府司令長官及要塞司令官ノ下ニハ平時ヨリ互ニ參謀一名ヲ交換兼務セシメ計畫ニ遺算ナカラシムヘシ

其二　吳、佐世保防禦

吳、佐世保ノ防禦ハ鎮守府司令長官ヲシテ要塞司令官及海軍各部ヲ統ヘ軍港防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

鎮守府司令長官ノ下ニハ陸軍參謀一名ヲ兼務セシメ計畫ニ遺算ナカラシムヘシ

其三　紀淡、鳴門、藝豫、下ノ關海峽ノ防禦

紀淡、鳴門、藝豫、下ノ關ノ各海峽防禦ハ要塞司令官ヲシテ海上防禦司令官及守備諸兵ヲ統ヘシメ海峽防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

其四　對馬防禦

對馬防禦ハ警備隊司令官及要港司令官中高級古參ノ者ヲシテ對馬防禦司令官ヲ兼任セシメ其所屬部隊及他ノ司令官ヲ統ヘ防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

第四條　以上諸防禦ニ任スル各府各司令部及各隊各艦ハ作戰上ニ就テハ東京防禦總督鎮守府司令長官要塞司令官若クハ對馬防禦司令官等ニ屬スト雖モ人事、經理、衛生及兵器彈藥其他物品ノ補給ニ關シテハ陸海軍各其關係官衙ノ區處ヲ受クルモノトス

附　則

第五條　本條例實施ノ期限ハ陸海軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム(明治二十九年陸海軍兩省告示ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行ス)

㊙東京防禦總督部條例(明治二十八年一月勅令第九號)

朕東京防禦總督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京防禦總督部條例

第一條　東京防禦總督部ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　東京防禦總督ハ陸軍大(中)將ヲ以テ之ニ補シ天皇陛下ニ直隷シ東京防禦ニ任ス

第三條　東京防禦總督ハ東京ノ衛戍勤務ヲ統轄シ師團長ニ命シテ之ヲ實行セシム

第四條　東京防禦總督ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣、防禦計畫ニ係ル事ニ就テハ參謀總長ノ區處ヲ受ク

第五條　參謀長ハ部務ヲ整理シ參謀及副官ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任事務ニ服シ其責ニ任ス

附則

第六條　本條例實施ノ期限ハ陸軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム（明治二十九年陸軍省第七號告示ヲ以テ五月十日ヨリ施行ス）

宮內省官制（明治二十二年七月宮內省達第十號）

宮內省官制ヲ改定スルコト左ノ如シ

宮內省官制

第一條　宮內大臣ハ帝室ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ所部各官ヲ統督シ兼テ華族ヲ監督ス

第二條　宮內大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタルモノヲ除クノ外勅ヲシテ帝室ニ關スル諸法規ヲ制定施行スルコトヲ得但法律勅令ニ抵觸スルコトヲ得ス

第三條　宮內大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタル主務及前條法規ニ關シ施行細則ヲ定ムルコトヲ得但其重要ナルモノハ裁可ヲ經可シ

第四條　宮內大臣ハ例規ニ依リ宮儀祭典行幸行啓其他主任ニ屬スル帝室事務ニ關シ臣民ニ命令告示スルコトヲ得

第五條　宮內大臣ハ臨時勅ヲ奉シ若クハ例規ニ依リ救恤褒賞贈賜ノ事ヲ施行ス

第六條　宮內大臣ハ主任ノ事務ニ關シ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ示命スルコトヲ得

第七條　宮內大臣ハ事故アルトキハ次官ヲシテ其職務ヲ代理セシムルコトヲ得又次官事故アルトキ及所部各部局長缺員若クハ事故アルトキハ裁可ヲ經テ所部高等官ニ代理ヲ命スルコトヲ得

第八條　宮內大臣ハ次官及所部各部局長ニ其事務ノ幾部ヲ委任スルコトヲ得

第九條　宮內大臣ハ所部各部局內ノ各課ヲ廢置分合シ及其處務規程ヲ定ムルコトヲ得

第十條　宮內大臣ハ所部奏任官ノ進退ハ之ヲ上奏シ判任官ノ進退及奏任官以下俸給定限內ノ增減ハ之ヲ專行ス准官モ亦同シ

第十一條　宮內大臣ハ所部各官定員內ニ於テ奏任官試補判任官見習ヲ置クコトヲ得准官モ亦同シ

第十二條　宮內大臣ハ裁可ヲ經ルニ非サレハ官制定限外ニ所部高等官ヲ增加シ又ハ兼任ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十三條　宮內大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ裁可ヲ經テ勅奏任官又ハ華族ニ委員ヲ命スルコトヲ得其所部外ニ涉ル者ハ豫メ該長官ノ承諾ヲ受ク可シ

第十四條　宮內大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ補助員顧問員評議員ヲ置クコトヲ得其奏任以下ノ待遇ニ屬スル者ハ裁可ヲ請フ可シ

第十五條　宮內大臣ハ裁可ヲ經テ人員及其待遇ノ資格ヲ定メ華族ニ勤務ヲ命スルコトヲ得其奏任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ上奏ス可シ

第十六條　宮內大臣ハ豫算金額內ヲ以テ所部官吏及委員補助員顧問員評議員勤務華族ニ賞與又ハ報酬ヲ爲スコトヲ得其賞與ノ奏任以上及同等ノ待遇ニ屬スルモノハ上奏ス可シ

第十七條　宮內大臣ハ旨ヲ奉シテ皇族ノ叙勳ヲ賞勳局總裁ニ示命ス可シ又所部官吏ノ叙勳ハ賞勳局總裁ニ申牒ス可シ

第十八條　宮內大臣ハ例規ニ依リ文武官宮內官及華族士民ノ敍位ヲ上奏及奉宣ス

第十九條　宮內大臣ハ事務ノ現況ニ依リ所部官吏ニ非職休職ヲ命シ又ハ復職セシムルコトヲ得其勅任官ニ係ルモノハ裁可ヲ請フ可シ

第二十條　宮內大臣ハ例規ニ照シ所部官吏及「華族」ヲ懲戒スルコトヲ得

第二十一條　「宮內大臣ハ每年二月後年度ノ收支豫算ヲ調製シ裁可ヲ經テ之ヲ定ム可シ但已ムヲ得サルノ事故アリテ臨時增額又ハ別途支出ヲ要スルコトアルトキハ裁可ヲ請フ可シ」

第二十二條　「宮內大臣ハ每年八月前年度ノ收支豫算ヲ了シ之ヲ上奏ス可シ」

第二十三條　宮內大臣ハ帝室會計審査ノ實務ニ關涉スルコトヲ得

第二十四條　宮內省ニ宮內次官一人ヲ置ク一等トス宮內大臣ヲ輔ケテ省務ヲ管理ス又大臣ヨリ委任ヲ受ケタル事務ハ之ヲ專行ス

第二十五條　宮內省ニ宮內書記官六人ヲ置ク奏任トス宮內大臣及次官ノ命ヲ承ケ省務ヲ掌理ス但親王ニ專屬スル書記官ヲ置クハ此限ニ在ラス

第二十六條　宮內大臣官房ニ左ノ職員ヲ置キ官房ノ庶務ヲ管理ス

宮內大臣秘書官　二人　奏任

大臣ニ專屬シテ文書往復其他官房內ノ庶務ヲ掌理ス但省務ノ現況ニ依リ書記官又ハ各部局ノ事務ヲ補助セシムルコトアルヘシ

宮內屬　判任

第二十七條　宮內省ニ內事外事調査ノ三課ヲ設ケ左ノ職員ヲ置キ事務ヲ統理ス

內事課長　一人　宮內書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

內事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課員ヲ監督ス

內事課次長　一人　宮內書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

外事課長　一人　宮內書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

外事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課員ヲ監督ス

外事課次長　一人　宮內書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

調査課長　一人　宮內書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

帝室ニ關スル制令法規及財產財務ニ關スル文案ヲ起草審査シ兼テ報告統計ノ事ヲ掌理シ課員ヲ監督ス

調査課次長　一人　宮內書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

宮內屬　判任

第二十八條　宮內省ニ左ノ各部局ヲ設ケ事務ヲ分管ス

侍從職
式部職
皇太后宮職
皇后宮職
內藏寮
御料局
審位局
大膳職
主殿寮附皇宮警察署
圖書寮
內匠寮
主馬寮
諸陵寮
侍醫局
主獵局
調度局
帝室會計審査局

第二十九條　侍從職ニ左ノ職員ヲ置キ常侍奉仕シ主管ニ屬スル御服御物ヲ管守ス

侍從長　一人　親任
職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

侍從　十五人（二人　二等、十三人　三等以下六等以上）
常侍奉仕シ御服御物ヲ分掌ス

侍從試補　三人　七等八等
掌侍從ニ亞ク

侍從屬　判任

第三十條　式部職ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ祭儀典式雅樂ノ事ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル但式部官掌典ハ名譽職ヲ置クコトヲ得

式部長　一人　一等
職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

式部次長　一人　二等
職務ヲ掌理ス

式部主事　二人（奏任、式部官ヨリ兼任）
庶務ヲ掌理ス

式部官　二十八人　二等五人及三等以下ノ內十七人ヲ名譽官トス
儀式ノ務ニ服ス

式部屬　判任
掌典長　一人　一等

祭典ヲ掌ル
掌典　九人　奏任
祭典ニ從事ス
掌典補　判任
雅樂部長　一人　（准奏任五等六等、式部官掌典ノ内ヨリ兼補）
樂部ヲ掌理シ部員ヲ監督ス
雅樂部副長　一人　准奏任七等八等
掌部長ニ亞ク
伶人長　准判任
伶人　准判任
伶員　等外
樂師長　准判任
樂師　准判任
樂手　准判任
樂生　等外
第三十一條　皇太后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事ヲ管理シ供御服御用度營繕及主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
皇太后大夫　一人　一等
職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

皇太后宮亮　一人　奏任
職務ヲ掌理ス
皇太后宮屬　判任
宮丁　等外
第三十二條　皇后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事及内廷ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
皇后宮大夫　一人　一等
職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
皇后宮亮　一人　奏任
職務ヲ掌理ス
皇后宮屬　判任
第三十三條　内藏寮ニ左ノ職員ヲ置キ皇室總費及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス
内藏頭　一人　一等二等
寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
内藏助　一人　奏任
寮務ヲ掌理ス
内藏屬　判任
第三十四條　御料局ニ左ノ職員ヲ置キ世傳御料及主管ニ屬スル財産會計ヲ掌理ス
御料局長　一人　一等二等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

御料局主事　三人　奏任

局務ヲ掌理ス

御料局理事　五人　奏任（明治二十三年宮内省達第八號ヲ以テ人員改正）

支廳長ニ任ス其職制ハ別ニ之ヲ定ム

御料局屬　判任

御料局技師　二十二人　奏任（同上）

御料地ノ實業ニ從事ス

御料局技手　判任

御料局技手補　判任四等以下（同上法令ヲ以テ等級改正）

御料局監守　准判任四等以下（同上）

第三十五條　爵位局ニ左ノ職員ヲ置キ爵位及華族ニ關スル事務ヲ管理ス

爵位局長　一人　一等二等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

爵位局主事　三人　奏任

局務ヲ掌理ス

爵位局屬　判任

「爵位局審理官　臨時省中高等官ヨリ兼補」

「華族懲戒審理ノ事ヲ掌ル」

第三十六條　大膳職ニ左ノ職員ヲ置キ供御饗宴及其器具ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル但皇太后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

大膳大夫　一人　二等三等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

大膳亮　一人　四等以下

職務ヲ掌理ス

大膳屬　判任

膳部長　准判任三等以上

膳部副長　准判任三等四等（同上）

膳部　准判任四等以下（同上）

膳部補　等外

第三十七條　主殿寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮及其附屬物件竝ニ鎖鑰洒掃鋪設ニ關スル事務ヲ管理シ兼テ皇宮警察署ヲ統轄ス但侍從職皇太后宮職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

主殿頭　一人　二等三等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

主殿助　二人　四等以下

寮務ヲ掌理ス但一人ハ京都出張所ニ補ス

主殿屬　判任

皇宮警察長　一人　四等五等
宮殿離宮ノ守門防火警察ノ事ヲ掌理シ部下ヲ監督ス
皇宮警察次長　一人　六等以下
警務ヲ掌理ス
皇宮警部　判任五等以上(同上)
皇宮警部補　判任六等(同上)
皇宮警手　等外
舍人　(准判任、省中判任官准官ノ内ヨリ繰補)
内舍人　准判任四等以下(同上)
仕人　等外

第三十八條　圖書寮ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ圖書記錄ヲ保管シ皇統譜皇族牒籍ニ關スル事務ヲ管理ス

圖書頭　一人　二等三等
寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
圖書助　一人　四等以下
寮務ヲ掌理ス
圖書屬　判任

第三十九條　内匠寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮庭園及廳舍ノ土木ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル但皇太后宮職ノ主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

内匠頭　一人　二等三等
寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
内匠助　一人　四等以下
寮務ヲ掌理ス
内匠屬　判任
内匠寮技師　五人　奏任
土木ノ實業ニ從事ス
内匠寮技手　判任

第四十條　主馬寮ニ左ノ職員ヲ置キ車馬乘具調馬及牧場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

主馬頭　一人　二等三等
寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
主馬助　一人　四等以下
寮務ヲ掌理ス
主馬屬　判任
車馬監　一人　五等以下
車馬乘具ヲ管守シ馬匹飼養調習醫療ノ事ヲ監督ス
調馬師　二人　六等以下
乘馬調習ニ從事ス

馬醫師　一人　六等以下
馬匹醫療ニ從事ス
主馬寮技師　二人　奏任
牧場ノ事務長ニ任シ實務ニ從事ス
馬醫　判任
主馬寮技手　判任
調馬手　准判任
馭者　准判任
掌車　准判任
第四十一條　諸陵寮ニ左ノ職員ヲ置キ陵墓ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
諸陵頭　一人　二等三等
寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
諸陵助　一人　四等以下
寮務ヲ掌理ス
諸陵屬　判任
守長　判任待遇（明治二十七年宮內省達甲第一號ヲ以テ等外ヲ判任待遇ト爲ス）
守部　等外
第四十二條　侍醫局ニ左ノ職員ヲ置キ診候醫藥衛生ニ關スル事務ヲ管理ス

侍醫局長　一人　勅任侍醫ヨリ兼任
局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
侍醫　十六人　二等以下
診候醫藥衛生ニ從事ス
侍醫局主事　三人　（奏任、侍醫ヨリ兼任）
局務ヲ掌理ス
醫員　判任
藥劑師長　一人　六等以下
藥品製煉鑑査及調劑ヲ掌理ス
藥劑師　判任
侍醫局屬　判任
第四十三條　主獵局ニ左ノ職員ヲ置キ狩獵及獵場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
但主獵官ハ名譽職トス
主獵局長　一人　二等三等
局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
主獵局主事　一人　四等以下
局務ヲ掌理ス
主獵官　十五人　二等以下
狩獵ニ從事ス

主獵局屬　判任
主獵局監守長　准判任
主獵局監守　等外

第四十四條　調度局ニ左ノ職員ヲ置キ御服御物及宮中省中需用物品被服購買修補運搬ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌リ兼テ省中洒掃ノ事ヲ掌ル但皇太后宮職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

調度局長　一人　二等三等
局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
調度局主事　一人　四等以下
局務ヲ掌理ス
調度局屬　判任

第四十五條　帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ財計ヲ監査ス

帝室會計審査局長　一人　二等三等
局務ヲ總督シ局員ヲ監督ス
帝室會計審査局主事　一人　（奏任、審査官ヨリ兼任）
局務ヲ掌理ス
帝室會計審査官　五人　奏任
帝室ノ財計審査ヲ掌ル
帝室會計審査局屬　判任

當四十六條　前條各官勅奏判ノ等級ニ規定ナキモノハ總テ勅任ハ一等二等奏任ハ三等ヨリ八等ニ至リ判任ハ一等ヨリ六等ニ至ルモノトス准官モ亦同シ但伶人長伶人樂師長樂師樂手監守長ハ等級ヲ設ケス（明治二十三年宮内省達第十三號ヲ以テ判任等級改正）

第四十七條　省中各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル准官モ亦同シ

第四十八條　四等五等ハ每等在職五年六等七等八等ハ每等在職三年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ其期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ（明治二十五年宮内省達甲第六號ヲ以テ本條改正）

第四十九條　判任官二等三等ハ每等在職四年四等五等六等ハ每等在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス但其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ（明治二十三年宮内省達第十三號ヲ以テ本條改正）

第五十條　省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙三表ノ定ムル所ニ依ル

第五十一條　勅任官ニシテ其官最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ特旨ヲ以テ一級上等ノ俸ヲ賜フコトアルヘシ

第五十二條　三等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ宮内大臣ノ上奏ニ依リ其俸六分ノ一マテヲ增賜スルコトアル可シ

第五十三條　判任官最上俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務熟練優等ナルモノハ特別ヲ以テ月俸六分ノ一マテヲ增給スルコトアルヘシ（明治二十四年宮内省達甲第四號ヲ以テ本條改正）

第五十四條　等外ハ一年ヲ踰ユルニ非サレハ增給スルコトヲ得ス但其每級定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ增給スルコトヲ得ス

第五十五條　各部局長ハ宮内大臣ニ具狀シ其部内奏任官又ハ判任官ヲ以テ課長トナシ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得課長事故アルトキハ該長官ニ於テ其部員ニ臨時代理ヲ命スルコトヲ得

第五十六條　次官各部局長及書記官ハ皆命ヲ大臣ニ承ルモノトス其他各部局員ハ皆命ヲ主務上官ニ承クルモノトス其直ニ旨ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ命ヲ承タルトキハ問ハス其主任ノ事務ニ付テハ各其責ニ任ス可シ准官モ亦同シ但經常旨ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ委任ヲ承ク可キ條項及其處務規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五十七條　第十一條ノ奏任官試補判任官見習ハ試驗ヲ經可キモノトス但教官技術官ハ當分ノ内試驗ヲ要セス

第五十八條　試補ハ在職三年見習ハ在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ本官ニ任スルコトヲ得ス但本官ニ任スルハ試補ハ六等以下トシ見習ハ五等以下トス

第五十九條　各官廳ニ於テ曾テ滿五年以上奏任官ヲ奉職セシ者ハ前條ノ例ニ依ラス試驗ヲ經テ直ニ本官ニ任スルコトヲ得准官モ亦同シ

第六十條　各部局長ハ判任官ノ缺ヲ補フ爲メ傭員ヲ置クコトヲ得其給額ハ本官俸ヲ踰ユルコトヲ得ス准官モ亦同シ

第六十一條　各部局長ハ前條ノ外雜役ニ供スル傭員ヲ必要トスルトキハ宮内大臣定ムル所ノ定員内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六十二條　省中判任官及其准官等外並ニ雜役ニ供スル傭員ノ定員ハ宮内大臣之ヲ定ム可シ

（俸級表ハ之ヲ畧ス）

㊙宮内省官制中改廢（明治二十四年十二月宮内省達甲第四號）

一　宮内高等官官等ヲ廢シ更ニ官等八等ヲ設ケ親任セラレタルモノ及一等二等ヲ勅任官トシ三等以下ヲ奏任官トス

一　宮内大臣内大臣侍從長ハ親任式部長掌典長皇太后宮大夫皇后宮大夫ハ一等華族女學校長ハ二等トシ其他從前ノ官制ニ於テ勅任トアルハ親任セラレタルモノ及一等二等勅任一等トアルハ一等同二等トアルハ二等奏任一等トアルハ三等トス以下之ニ准ス

一　宮内省官制第二十九條侍從十五人ノ内二人ヲ二等十三人ヲ三等以下六等以上トス

一　同第三十條式部官十五人ヲ二十人トシ内二人ヲ二等十八人ヲ三等以下トシ二等二人及三等以下ノ内十二人ヲ名譽官トス

一　同第五十條高等官俸給表中官等ノ欄ヲ改正シテ一等ヨリ八等トシ一等二等ノ一級俸二級俸ヲ削リ三級俸ヲ一級俸トシ以下順次繰上ケ四等ノ一級俸ヲ削リ二級俸ヲ一級俸トシ以下順次繰上ク

一　宮内官一等二等ハ總テ其等位ニ依リ一級俸ヨリ四級俸マテノ内ヲ給ス但侍從掌典長東宮侍從長ハ其等位ニ依リ二級俸ヨリ五級俸マテノ内ヲ給ス

一　三等以下ノ文事秘書官及藥劑師長ハ其等位ニ依リ一級俸ヨリ四級俸マテノ内ヲ給ス

一　宮内省官制第五十三條ヲ左ノ通リ改正ス

判任官最上俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナルモノハ特別ヲ以テ月俸六分ノ一マテヲ增給スルコトアルヘシ

㊙會計檢査院法（明治二十二年五月法律第十五號）

除樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計檢査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計檢査院法

第一章　組織

第一條　會計檢査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條　會計檢査院ハ院長一員部長三員檢査官十二員ヲ置キ會計檢査官トシテ別ニ書記官二員檢査官補三十二員及屬若干員ヲ置ク（明治二十九年法律第九十號ヲ以テ檢査官補ノ定員ヲ改正ス）

第三條　院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ檢査官書記官及檢査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス（明治二十九年勅令第百六十號ヲ以テ院長ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ）

第四條　院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ整理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條　會計檢査院ニ三部ヲ設ケ各部部長一員檢査官四員ヲ以テ檢査ノ事務ヲ分掌ス

第六條　會計檢査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計檢査官ハ刑罪裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

會計檢査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　父子兄弟ハ同時ニ檢査官トナルコトヲ得ス

第八條　會計檢査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條　會計檢査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一　第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二　第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三　第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四　檢査事務ノ規程計算證明ノ樣式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五　其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條　計算檢査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章　職權

第十二條　會計檢査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ檢査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一　總決算

二　各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四　法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セラレタル決算

第十四條　會計檢査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ檢査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書

ヲ作ルヘシ

一　總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二　歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有治賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規定又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三　豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナルヤ否ヤ

第十五條　會計檢査院ハ各年度ノ會計檢査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但其ノ檢査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計檢査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計檢査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條　會計檢査院ハ計算書及計算證明ノ樣式竝ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條　會計檢査院ハ各官廳ヲシテ檢査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計檢査院長ハ檢査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地檢査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ檢査ニ立合ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ檢査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條　會計檢査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條　出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ樣式ヲ守ラサルモノハ會計檢査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條　政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計檢査院ニ於テ檢査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條　會計檢査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏二重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但詐僞ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計檢査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章　附則

第二十五條　會計檢査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

會計檢査院事務章程（明治二十二年九月勅令第百六號）

朕會計檢査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計檢査院事務章程

第一章　部課

第一條　會計檢査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ノ分課ハ會計檢査院長之ヲ定ム（明治三十年五月勅令第百四十二號ヲ以テ本項改正）

各課ノ課長ハ檢査官ヲ以テ之ニ充テ檢査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條　會計檢査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章　會議

第三條　會計檢査院ノ會議ハ會計檢査官ヲ以テ組織ス

第四條　總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條　總會議ハ現員會計檢査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニアラサレハ議事ノ效力ヲ有セス

出席會計檢査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ檢査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

檢査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計檢査官ノ數三分ノ一以内ニ限ル

第六條　總會及部會議ハ課長ノ査閲ヲ經タル檢査官補ノ報告書若ハ會計檢査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章　職員及權限

第七條　院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條　院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ叙位叙勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ增俸賞與ヲ行フ

第九條　「檢査官ハ奏任四等以上トシ檢査官補ハ「奏任四等以下」トス」

第十條　會計檢査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條　左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

第一　各部及各課官吏ノ事務ヲ定ム

第二　職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス

第三　檢査官補ニ總會議出席ヲ命ス

第四　臨時屬官ニ指命シテ檢査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス

第五　特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム

第六　奏任以下ノ官吏ニ派出檢査ヲ命ス

第七　檢査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム

第八　議事ニ關ル細則ヲ定ム

第九　會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス

第十　庶務及會計ニ關ル規定ヲ定ム

第十二條　院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十三條　院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第十四條　總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第十五條　院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得

第十七條　院長ハ檢査ノ精覈ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽査ヲ行フヘシ

第十八條　左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一　所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽査シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二　檢査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三　部中檢査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四　部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條　部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條　部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以內ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條　部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條　部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付キ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條　部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條　課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條　課長ハ課中檢査官補ノ調製スル文章ヲ査閱シ其ノ適當ヲ證シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ檢査官補ノ責任ニ屬スルモノノ外ハ院長及部長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條　課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條　課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍內ニ於テ會計檢査院法第十四條及第十五條ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ檢査報告書又ハ行務成績書ニ揭載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條　檢査官補ハ計算書證憑書ノ檢査報告ヲ爲シ辯理書其ノ他文書ノ起草ヲ掌ル

檢査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ檢査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條　檢査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲ス

第三十條　檢査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ檢査官ノ闕席ヲ補充スル爲ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條　書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條　屬ハ各課部ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第四章　行務

第三十三條　會計檢査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條　會計ノ檢査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ施行ス

第一　命令官決算ノ檢定

第二　出納吏計算ノ檢査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各省決算報告書及其證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

出納官吏計算ノ檢査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

右ノ外會計檢査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ檢査判決ハ其ノ主管者ヨリ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條　會計檢査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ檢査シ及其ノ判決ニ與ルコトヲ得ス

第三十六條　會計檢査院ハ檢査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發布シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條　會計檢査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條　審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一　不合規ノ件ニ對スル批難

第二　將來ノ措置ニ對スル注意

第三　不明際ノ件ニ對スル推問

第三十九條　會計檢査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

檢査ノ發計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條　出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計檢査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條　判決書ヲ發シタルトキハ會計檢査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ

第四十二條　會計檢査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條　會計檢査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル

第一　計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ

第二　脫漏又ハ二重記載アリトスルトキ

第三　新ニ證憑書ヲ發見シタルトキ

第四　正當ナラサル證憑書ニ據リ判決シタリトスルトキ

第五　判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ

第四十四條　再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ檢査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第四十五條　會計檢査院ハ檢査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

會計檢査院臺灣支廳（明治二十九年五月法律第九十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臺灣ニ會計檢査院支廳ヲ設置スルノ法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　臺灣地方所在官廳ノ歳入歳出及官有物ニ關スル計算ヲ檢査スル爲メ會計檢査院ニ一部ヲ增設シ之ヲ臺灣ニ置キ會計檢査院臺灣支廳ト稱ス

第二條　會計檢査院ニ部長一員檢査官三員書記官一員檢査官補五員及廳若干員ヲ增置シ臺灣支廳ノ職員ニ充ツ

第三條　部長ハ檢査上必要ナリト認ムルトキハ所屬官吏ヲ派遣シテ實地檢査ヲ爲スコトヲ得

第四條　此ノ法律ニ規定セサル事項ハ總テ會計檢査院法ニ依ル

附則（明治三十年三月法律第二十五號ニテ本則追加）

會計檢査院ハ當分ノ内左ノ職員ヲ增置シ本廳ニ於テ第一條ノ事務ヲ執行スルコトヲ得

部長　一員
檢査官　二員
檢査官補　二員

屬　若干員

會計檢査院臺灣支廳事務章程（明治二十九年五月勅令第百六十四號）

朕會計檢査院臺灣支廳事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　部長ハ支廳中一切ノ事務ヲ管理シ廳員ヲ監督ス

第二條　部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ會計檢査院總會議ニ提出スルノ外復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第三條　部長ハ臺灣總督ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第四條　部長ハ其ノ主管事務ノ分配ヲ定メ又ハ院長ノ認可ヲ得テ支廳ノ處務ニ關スル規程ヲ定ムレル行務成績書ニ掲載スヘキ事項其ノ他會計檢査院法第十四條ニ依レル檢査報告書又ハ第十五條ニ依書ヲ添ヘ其ノ議決ヲ求ムル爲メ院長ニ提出スヘシ

第五條　部長ハ其ノ主管事務ニ關シ會計檢査院總會議ノ議決ヲ要スルト認ムル事項ハ報告

第六條　部長事故アリタルトキハ上席ノ檢査官之ヲ代理シ課長事故アルトキハ部長ノ命ニ依リ他ノ課長之ヲ代理ス

第七條　書記官ハ部長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第八條　屬ハ各課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第九條　計算檢査ノ判決ハ部會議ニ於テ之ヲ爲ス但院長ニ於テ總會議ヲ要スト定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條　支廳主管ノ事務ニシテ部長ヨリ會計檢査院總會議ノ議決ヲ求ムル爲メ院長ニ提出スルモノハ會計檢査院ノ或ル一部ニ於テ之ヲ管理シ所屬檢査官補ヲシテ議案提出及其ノ辨明等ヲ爲サシムヘシ其ノ部ハ院長之ヲ定ム

第十一條　會計檢査院長ハ其ノ權限ニ屬スル事務ノ一部ヲ部長ニ委任スルコトヲ得

第十二條　此ノ勅令ニ規定セサル事項ハ總ラ會計檢査院事務章程ニ依ル

內閣官制（明治二十二年十二月勅令第百三十五號）

朕茲ニ內閣官制ヲ裁可ス

內閣官制

第一條　內閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス

第二條　內閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス

第三條　內閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得

第四條　凡ソ法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ內閣總理大臣及主任大臣之ニ副署スヘシ勅令ノ各省專任ノ行政事務ニ屬スル者ハ主任ノ各省大臣之ニ副署スヘシ

第五條　左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ

一　法律案及豫算決算案

二　外國條約及重要ナル國際條件

三　官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令

四　諸省ノ間主管權限ノ爭議

五　天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願

六　豫算外ノ支出

七　勅任官及地方長官ノ任命及進退

其ノ他各省主任事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

第六條　主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス內閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條　事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ內閣ニ下付セラルルノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條　內閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條　各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ受ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條　各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ內閣員ニ列セシメラルルコトアルヘシ

法制局官制（明治二十六年十月勅令第百十八號）

朕法制局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法制局官制

第一條　法制局ハ內閣ニ隷シ左ノ事務ヲ掌ル

一　內閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申スルコト

二　法律命令ノ制定、廢止、改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ內閣ニ上申スルコト

三　各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ內閣ニ上申スルコト

四　前諸項ニ揭クルモノノ外內閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申スルコト

第二條　法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　一人　勅任

參事官　專任六人　奏任

書記官　二人　奏任

屬　十一人　判任

第三條　長官ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條　奏任官ノ進退ハ長官之ヲ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條　長官事故アルトキハ上席參事官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

第七條　書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第九條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

賞勳局官制（明治二十六年十月勅令第百十六號）

朕賞勳局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賞勳局官制

第一條　賞勳局ハ內閣ニ隷シ左ノ事務ヲ掌ル

一　勳位、勳章及年金ニ關スル事項

二　記章、褒章其ノ他賞件ニ關スル事項

三　外國ノ勳章、記章ノ受領又佩用ニ關スル事項

第二條　賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁　一人　勅任

副總裁　一人　勅任

書記官　二人　奏任

屬　九人　判任

第三條　總裁ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條　副總裁ハ總裁ヲ佐ケ局中一切ノ事務ヲ整理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　奏任官ノ進退ハ總裁之ヲ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第六條　書記官ハ總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

◎賞勳會議規程（明治二十六年十月勅令第百十七號）

朕賞勳會議規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賞勳會議規程

第一條　勳位、勳章及年金ノ叙賜又ハ褫奪ノ當否ヲ議定スル爲賞勳局ニ賞勳會議ヲ設ク

第二條　賞勳會議ハ賞勳局總裁、同副總裁及議定官ヲ以テ組織ス

第三條　賞勳會議ノ議長ハ賞勳局總裁ヲ以テ之ニ充ツ總裁事故アルトキハ副總裁又ハ上席議定官之ヲ代理ス

第四條　議定官ハ十五人以内トシ勅任官ニシテ勳一等以上ノ者ノ中ヨリ之ニ補ス

賞勳局副總裁ハ議定官トシテ會議ニ列ス

第五條　前條ノ外特ニ皇族ヲ以テ議定官ニ補セラルルコトアルヘシ

第六條　勳位、勳章及年金ノ叙賜又ハ褫奪ハ議定官八人以上ノ議ヲ經ルニアラサレハ之ヲ上奏スルコトヲ得ス

第七條　議定官ノ議ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第八條　賞勳會議ノ事務ハ賞勳局總裁之ヲ管掌ス

附則

第九條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

◎內閣所屬職員官制（明治二十六年十月勅令第百十九號）

朕內閣所屬職員官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內閣所屬職員官制

第一條　內閣所屬ノ職員左ノ如シ

書記官長	一人	勅任
恩給局長	一人	勅任（法制局長官ヲシテ之ヲ兼ネシム）
官報局長	一人	奏任
書記官	專任四人	奏任
內閣總理大臣祕書官	專任二人	奏任
恩給局審査官	專任一人	奏任
屬	百二十三人	判任
技手	二人	

第二條　書記官長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ機密文書ヲ管掌シ內閣ノ庶務ヲ統理シ及判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第三條　書記官ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　詔勅及法律命令ノ發布ニ關スル事項

二　大日本帝國憲法及法律勅令ノ原本ノ保存ニ關スル事項

四　官印ノ管守ニ關スル事項

五　內閣ノ會計ニ關スル事項
六　各廳高等官ノ履歷ニ關スル事項
七　內閣記錄ノ編纂ニ關スル事項
八　內閣所管圖書ノ類別、購買、保存及出納竝其ノ目錄調製ニ關スル事項
九　內閣所用圖書ノ出版ニ關スル事項
十　諸般ノ統計表編製ニ關スル事項
十一　統計材料ノ徵集ニ關スル事項
十二　內外統計表ノ交換ニ關スル事項

第四條　各局長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ又ハ內閣書記官長ノ指揮ニ從ヒ局務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ監督ス

第五條　恩給局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　恩給及扶助料ヲ受ク可キ資格及權利ノ審査竝裁決ニ關スル事項
二　恩給及扶助料ノ支給ニ關スル事項

第六條　官報局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　官報、法令全書及職員錄ノ編輯、發賣竝配送ニ關スル事項
二　官報、法令全書及職員錄ノ諸收入竝納付ニ關スル事項

第七條　內閣總理大臣祕書官ハ大臣官房ノ事務ヲ掌ル

第八條　恩給局審査官ハ恩給局ノ事務ヲ掌ル

第九條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第十條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

法典調査會規則（明治二十七年三月勅令第三十號）

朕法典調査會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法典調査會規則

第一條　法典調査會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ法例、民法、商法及附屬法律ノ修正案ヲ起草審議ス

第二條　法典調査會ハ總裁副總裁各一人及委員三十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　總裁、副總裁及委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第四條　委員ニシテ引續キ二箇月以上會議ニ出席セサル者アルトキハ總裁ヨリ之レヲ內閣總理大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ內閣總理大臣ヨリ奏請ノ上其委員ヲ免ス

第五條　法典調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

第六條　總裁ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ內閣總理大臣ニ具申ス

第七條　副總裁ハ總裁ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ管理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副總裁ハ前項ノ外委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列ス

第八條　法典調査會ニ起草委員若干人ヲ置キ第一條ニ掲クル法律ノ修正案ヲ起草セシム

起草委員ハ委員中ニ就キ總裁之ヲ命ス

第九條　總裁副總裁及委員ニハ一箇年千圓以內ノ手當ヲ給ス但起草委員ニハ二千圓迄ヲ給スルコトヲ得

第十條　法典調査會ニ起草委員補助五人以上ヲ置キ起草委員ノ職務ヲ補助セシム

第十一條　法典調査會ニ書記若干人ヲ置キ議事ノ筆記及庶務ニ從事セシム

第十二條　起草委員補助ニハ一箇年六百圓以內書記ニハ三百圓以內ノ手當ヲ給ス

◎臺灣事務局官制（明治三十年八月勅令第二百九十五號）

朕臺灣事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣事務局官制

第一條　內閣ニ臺灣事務局ヲ置キ臺灣ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理セシム

第二條　臺灣事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　一人　勅任

書記官　專任三人　奏任

屬　十二人　判任

第三條　局長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ又ハ內閣書記官長ノ指揮ニ從ヒ局中一切ノ事務ヲ管理シ所屬僚員ヲ監督ス

第四條　書記官ハ局長ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ明治三十年九月二日ヨリ施行ス

◎各省官制通則（明治二十六年十月勅令第百二十二號）

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

第一條　本則ハ外務、內務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ各省ニ適用ス

第二條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付キ其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リテ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條　各省大臣ハ任主ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條　各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以

下ハ之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ內務大臣之ヲ上奏ス但收稅長ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ大藏大臣之ヲ上奏ス

第八條　各省大臣ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ叙位叙勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ叙位叙勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條　各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ內閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外其ノ職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得

第十條　各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項

二　官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

四　公文書類及所案文書ノ接受發送ニ關スル事項

五　統計報告ノ調製ニ關スル事項

六　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

七　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並ニ會計ニ關スル事項

八　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項

九　其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

陸軍省海軍省ニ於テハ前項第七第八ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十一條　各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

第十二條　各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條　大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條　各省ニ左ノ職員ヲ置ク

次官

局長

參事官

祕書官

書記官

屬

第十五條　各省次官ハ一人勅任トス

第十六條　次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

第十七條　各局局長ハ一人勅任又ハ奏任トシ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十八條　局長ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條　參事官ハ一人ヲ勅任トシ其他ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル（明治三十年四月勅令第八十四號ニテ本條改正）

第二十條　參事官ハ其ノ省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク

第二十一條　祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ

助ク

第二十二條　書記官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

第二十三條　各省專任祕書官ハ一人トス但外務省ニ於テハ專任二人ヲ置クコトヲ得

各省專任參事官專任書記官ハ併セテ九人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム（同上法令ニテ本項中八人ヲ九人ニ改ム）

第二十四條　大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條　各省判任官ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條　本則ニ掲クルモノノ外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

附則

第二十八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

㊞内務省官制（明治二十六年十月勅令第百二十七號）

朕内務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内務省官制

第一條　内務大臣ハ地方行政、議員選擧、警察、監獄、土木、衛生、地理、社寺、出版、版權、戸籍、賑恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス（明治三十年八月勅令第二百九十六號ニテ本條改正）

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外褒賞竝ニ戸籍ニ關スル事務ヲ掌ル（明治三十年七月勅令第二百五十三號ニテ本條改正）

第三條　内務省專任參事官ハ四人專任書記官ハ八人ヲ以テ定員トス（同上法令ニテ全條改正同年八月勅令第二百九十六號ヲ以テ專任書記官ノ定員ヲ改ム）

内務省ニ專任内務事務官五人專任監獄事務官一人ヲ置ク

内務事務官ハ奏任トス各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

監獄事務官ハ奏任トス監獄局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第四條　内務省ニ左ノ七局ヲ置ク（同上）

縣治局
醫保局
土木局
社寺局
北海道局
監獄局
庶務局

第五條　縣治局長、醫保局長、土木局長、衛生局長及社寺局長、北海道局長ハ勅任トシ監獄局長

及庶務局長ハ奏任トス（同上）

第六條　縣治局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議員選擧ニ關スル事項

二　府縣會、府縣經濟其ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項

三　郡會、郡經濟其ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項

四　市町村會、公共組合會及市町村公共組合ノ經濟其他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル事項

五　北海道ニ關スル事項

六　賑恤及救濟ニ關スル事項

七　府縣立以下ノ瘋院、盲唖院、瘋癲院及育兒院其ノ他慈惠ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項

八　徴兵及徴發ニ關スル事項

第七條　警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　行政警察ニ關スル事項

二　高等警察ニ關スル事項

三　（明治三十年七月勅令第二百五十三號ニテ本項削除）

四　（同上）

五　圖書出版及版權登錄ニ關スル事項

六　（同上）

第八條　土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項

二　府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項

三　直轄工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項

四　水面堤立ニ關スル事項

第九條　衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　傳染病及地方病ノ豫防種痘其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項

二　檢疫停船ニ關スル事項

三　醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項

四　衛生會及地方病院ニ關スル事項

第十條　社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　神宮、官國幣社、招魂社並神社社格及古社寺保存ニ關スル事項

二　神佛各派ノ教規、宗制、神職僧侶教師ノ身分、社寺及宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其ノ他總テ宗教ニ關スル事項

第十條ノ二　北海道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（明治三十年八月勅令第二百九十六號ニテ本條改正）

北海道ニ關スル事項

第十一條　監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（明治三十年七月勅令第二百五十三號ニテ全條改正）

一　監獄ニ關スル事項

二　假出獄及監視假免ニ關スル事項

第十二條　庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項(同上)

二　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項

三　官有地處分竝管理ニ關スル事項

四　土地收用ニ關スル事項

五　官有地地種目變換ニ關スル事項

第十三條　內務省ニ專任技師七人專任技手二十五人ヲ置ク(同上注令ニテ全條ヲ改メ同年七月令第二百五十三號ニテ人員ニ改正ヲ加フ)

內務省屬ハ二百六十八人ヲ以テ定員トス

附則

第十四條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

㊞土木技監ヲ置ク(明治二十七年六月勅令第六十六號)

朕土木技監ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內務省ニ土木技監一人ヲ置ク

土木技監ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ土木局ニ關スル技術上ノ事項ヲ掌理シ及直轄土木事業ノ施行竝ニ地方土木事業ノ監督ニ關スル技術上ノ事項ニ付土木監督署長ヲ指揮ス

㊞外務省官制(明治二十六年十月勅令第百二十三號)

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外務省官制

第一條　外務大臣ハ外國ニ關スル政務ヲ施行シ及外國ニ於ケル帝國商事ノ保護ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官領事官、外國人紋勳、條約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　外務省專任參事官ハ三人專任外務大臣秘書官ハ二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス(明治三十年七月勅令第二百五十二號ニテ本條改正)

第四條　外務省ニ左ノ二局ヲ置ク

政務局

通商局

第五條　政務局長及通商局長ハ勅任トス

第六條　政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　外務省ニ翻譯官五人ヲ置ク奏任トス文書翻譯ニ從事ス

第九條　外務省屬ハ七十人ヲ以テ定員トス

第十條　外務省ニ翻譯官補五人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辯ニ從事ス(明治二十七年勅令第五十三號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

附則

第十一條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

外交官及領事官官制（明治二十六年十月勅令第百二十四號）

朕外交官及領事官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官官制

第一條　外交官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使
辨理公使
代理公使
公使館一等書記官
公使館二等書記官
公使館三等書記官
外交官補

第二條　特命全權公使及辨理公使ハ勅任トシ代理公使、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補ハ奏任トス

第三條　領事官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

總領事
一等領事
二等領事

領事官補

第四條　總領事、一等領事、二等領事及領事官補ハ奏任トス

第五條　外交官ヲ置カサルノ地ニ於テ外交事務官ヲ置クコトヲ得

外交事務官ハ奏任トス領事官ヲシテ之ヲ兼ヲシム

第六條　領事官ヲ置カサルノ地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽領事ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任トシ名譽領事ハ奏任待遇トス

第七條　公使館及領事館ニ書記生ヲ置ク

書記生ハ判任トス

第八條　外交官又ハ領事官ニシテ任所ナキ者ハ待命外交官又ハ待命領事官トス

待命外交官及待命領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

待命外交官及待命領事官ハ滿三年ヲ以テ期トス期滿レハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

大藏省官制（明治三十年四月勅令第百二十號）

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏省官制

第一條　大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條　大藏省專任參事官ハ三人專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス

第三條　大藏省ニ左ノ四局ヲ置ク

主計局
主稅局
理財局
監督局

第四條　主計局長主稅局長理財局長及監督局長ハ勅任トス

第五條　主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　總豫算總決算ニ關スル事項
二　特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
三　仕拂豫算ニ關スル事項
四　主計簿ノ登記ニ關スル事項
五　歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項
六　豫備金支出ニ關スル事項
七　定額繰越、承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
八　收入支出ノ科目ニ關スル事項
九　金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
十　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ歲計ニ關スル事項

第六條　主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國稅賦課徵收ニ關スル事項
二　稅務ノ管理監督ニ關スル事項
三　民有地地種臣變換ニ關スル事項
四　土地臺帳ニ關スル事項
五　稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
六　外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
七　保稅倉庫ニ關スル事項
八　葉煙草專賣ニ關スル事項
九　大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
十　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項

第七條　理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國費ノ運用出納ニ關スル事項
二　國庫ノ出納管理ニ關スル事項
三　國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
四　國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
五　國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
六　貨幣ニ關スル事項
七　紙幣國債證券大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
八　國債計算書ノ調製ニ關スル事項

九　年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
十　備荒儲蓄ニ關スル事項
十一　國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
十二　預金保管物及供託物ニ關スル事項
十三　一般金融ニ關スル事項
十四　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項

第八條　監督局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　銀行ノ管理監督ニ關スル事項
二　金庫ノ監督ニ關スル事項
三　諸計算書ノ下檢査ニ關スル事項
四　出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
五　地方財務ノ監督ニ關スル事項
六　會社債券ニ關スル事項
七　鐵道補助金ニ關スル事項
八　本省所管造營物ノ監督ニ關スル事項

第九條　大藏省ニ主計官四人主稅官五人稅務監督官五人鑑定官五人技師二人ヲ置ク奏任トス主計官ハ主計局又ハ理財局ニ主稅官稅務監督官鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其ノ他ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第十條　大藏省ニ鑑定官補五人技手四人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル各事務ニ從事ス

第十一條　大藏省屬ハ三百四十八ヲ以テ定員トス

造幣局官制（明治二十六年十月勅令第百三十六號）

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條　造幣局ハ大阪市ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造、蓄貨幣ノ鑄潰、賞牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及諸鑛物ノ試驗ヲ掌ル

第二條　造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	奏任
技師	四人	
屬	二十八	判任
技手	二十一人	

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ管理ス

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第七條　東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム

造幣支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

印刷局官制（明治二十六年十月勅令第百三十七號）

朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印刷局官制

第一條　印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ兌換銀行券、印紙、郵便切手、諸證券類ノ製造竝諸印刷及抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條　印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　一人　奏任
技師　三人
屬　三十四人　判任
技手　六十人

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ管理ス

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

附則

第七條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

稅關官制（明治三十年六月勅令第二百二號）

朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關官制

第一條　稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入及港內艀舟ノ取締ニ關スル事項
二　貨物ノ輸出入ニ關スル事項
三　各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項
四　各開港外ニ於ケル輸出入ノ貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項
五　海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
六　稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項
七　私設保稅倉庫監督ニ關スル事項
八　保稅倉庫藏置ノ貨物運搬取締ニ關スル事項

第二條　左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

武藏國橫濱
攝津國神戶
攝津國大阪
肥前國長崎
波島國函館

越後國新潟

第三條　前條稅關ノ外必要ノ場所ニ稅關支署又ハ稅關監視署ヲ設置ス其ノ設置ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四條　各稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

第五條　各稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

檢査官	二人	奏任
鑑定官	七人	奏任
監視官	二人	奏任
屬	二百四十二人	判任
鑑定官補	四十五人	判任
技手	八人	判任
監吏	三十九人	判任
監吏補	三百八十五人	判任

第六條　稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第七條　檢査官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入申告書其ノ他諸文書ノ監査ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條　鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九條　監視官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ監吏監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ檢査鑑定ノ事務ニ從事ス

第十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス

第十三條　監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ從事ス

第十四條　監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク

第十五條　各稅關支署ニ署長一人ヲ置キ稅關屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　各關稅監視署ニ署長一人ヲ置キ稅關監吏若ハ監吏補ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條　稅關支署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第十八條　稅關監視署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ水陸監視ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督ス

陸軍省官制（明治二十九年五月勅令第百九十二號）

朕陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍省官制

第一條　陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ副官五人ヲ置キ陸軍各兵科大中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌ラシム

陸軍大臣秘書官ハ二人トシ副官中ヨリ之ヲ兼補ス

大臣官房ニ軍吏二人ヲ置キ高級副官ノ命ヲ承ケ本省ニ於ケル諸給與及用度ノ事ヲ掌ラシム

第三條　陸軍省ニ書記官ヲ置カス

陸軍省ニ書記官ヲ置カス

第四條　大臣官房ニ人事課ヲ置キ課長ハ陸軍各兵科大佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員四人ヲ置キ

陸軍各兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス

第五條　人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　將校同相當官准士官竝文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、增給ニ關スル事項

二　將校竝准士官兵籍文官名簿停年名簿及充員名簿ニ關スル事項

三　退職將校同相當官准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

四　叙位、叙勲、記章、褒章、賞與ニ關スル事項

五　恩給ニ關スル事項

六　准士官下士文官採用ニ關スル事項

第六條　陸軍省ニ左ノ諸局部ヲ置ク

軍務局　陸軍將校ヲ以テ局長ニ充ツ（明治三十年三月勅令第第二十七號ニテ本項改正）

經理局　陸軍監督總監若クハ陸軍監督監ヲ以テ局長ニ充ツ（同上）

醫務局　陸軍軍醫總監若クハ陸軍軍醫監ヲ以テ局長ニ充ツ（同上）

法官部　勅任理事ヲ以テ部長ニ充ツ

第七條　軍務局ニ軍事課、歩兵課、騎兵課、砲兵課、工兵課、兵器課ヲ置ク（明治三十年九月勅令第三百三號ニテ本條改正）

第八條　軍務局軍事課長ハ陸軍各兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍各兵科中少佐大尉一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス（同上）

課長及中少佐課員一名ハ參謀官トス

第九條　軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（同上）

一　編制、建制ニ關スル事項

二　動員計畫、戒嚴、及徵發ニ關スル事項

三　軍隊諸勤務、教育、演習及檢閲ニ關スル事項

四　軍紀、風紀ニ關スル事項

五　諸學校（經理學校軍醫學校獸醫學校及砲兵工科學校ヲ除ク）ニ關スル事項

六　外國駐在員ニ關スル事項

七　儀式、禮式、服制、徽章ニ關スル事項

第十條　軍務局歩兵課長ハ陸軍歩兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍歩兵科中少佐大尉陸軍一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス（同上）

第十一條　歩兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（同上）

一　兵役、召集、解兵ニ關スル事項

二　各兵科將校ノ補充ニ關スル事項

三　各兵科各部准士官以下補充ノ規程ニ關スル事項

四　現役、豫備役及後備役軍人ニ關スル事項

五　憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ下士以下補充ニ關スル事項

六　其ノ他憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊、聯隊區司令部ニ關スル事項

第十二條　軍務局騎兵課長ハ陸軍騎兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍騎兵科中少佐大尉陸軍輜重兵科中少佐陸軍獸醫監陸軍一等獸醫ヲ以テ之ニ補ス（同上）

第十三條　騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一　馬匹ノ供給、飼養、衛生、育成、保續、繁殖並牧場ニ關スル事項

二　蹄鐵ニ關スル事項

三　獸醫ノ材料ニ關スル事項

四　軍馬補充部、軍馬衛生會議及獸醫學校ニ關スル事項

五　獸醫部ノ教育、人員補充及兵籍ニ關スル事項

六　蹄鐵術ノ教育及各兵蹄鐵工長下長ノ補充ニ關スル事項

七　騎兵、輜重兵ノ下士以下補充ニ關スル事項

八　其ノ他騎兵、輜重兵及獸醫ニ關スル事項

第十四條　軍務局砲兵課長ハ陸軍砲兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍砲兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス(同上)

第十五條　砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一　砲兵會議及砲兵工科學校ニ關スル事項

二　要塞(工兵ニ關スル事項ヲ除ク)ニ關スル事項

三　砲兵ノ下士以下補充ニ關スル事項

四　其ノ他砲兵ニ關スル事項

第十六條　軍務局工兵課長ハ陸軍工兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍工兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス(同上)

第十七條　工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一　要塞(砲兵ニ關スル事項ヲ除ク)ニ關スル事項

二　運輸通信、交通ニ關スル事項

三　東京防禦總督部及要塞司令部ニ關スル事項

四　工兵會議及築城部ニ關スル事項

五　工兵ノ下士以下補充ニ關スル事項

六　其ノ他工兵ニ關スル事項

第十八條　軍務局兵器課長ハ陸軍砲兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍砲兵科中少佐陸軍工兵科中少佐陸軍砲兵科大尉陸軍輜重兵科大尉陸軍一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス(同上法令ヲ以テ本條及以下二條ヲ加ヘ以下順次繰下ク)

第十九條　兵器課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵器彈藥及兵器費ヲ以テ支辨スル器具材料ニ關スル事項

二　要塞ノ砲床ニ關スル事項

三　兵器廠及砲兵工廠ニ關スル事項

第二十條　軍務局ニ定員ノ外他ニ本職アル各兵科大中尉ノ出仕將校八名ヲ置クコトヲ得

第二十一條　經理局ニ第一課第二課第三課ヲ置ク

第二十二條　經理局第一課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス

第二十三條　第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍總豫算決算報告及勵員計畫ニ係ル費額ニ關スル事項

二　諸給與及會計規定ノ審査ニ關スル事項
三　俸給諸手當旅費ノ規程及證記證書ニ關スル事項
四　監督部軍吏部ノ教育、人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
五　金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項
六　經理學校ニ關スル事項

第二十四條　經理局第二課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス

第二十五條　第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　糧秣被服及馬匹ニ係ル給與ノ規程ニ關スル事項
二　糧秣被服ニ關スル事項
三　中央糧秣廠被服廠及千住製絨所ニ關スル事項

第二十六條　經理局第三課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員四人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏技師ヲ以テ之ニ補ス

第二十七條　第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　陸軍用地及諸建築(工兵事業及砲兵工廠ニ關スルモノヲ除ク)ニ關スル事項
二　宅料、陣營具及其ノ永續料、消耗品料、埋葬料、並諸調度ノ規程ニ關スル事項
三　金櫃公用行李、戰用炊具及馬匹手入具ニ關スル事項(同上法令ヲ以テ本項ヲ追加シ以下順次繰下ク)
四　官有財産ニ關スル事項

五　物品會計及出納官吏ニ關スル事項
六　東京陸軍經營部ニ關スル事項

第二十八條　醫務局ニ第一課第二課ヲ置ク

第二十九條　醫務局第一課長ハ陸軍一等軍醫正若クハ二等軍醫正ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍二、三等軍醫正藥劑監一等軍醫ヲ以テ之ニ補ス(明治三十年三月勅令第三十七號ニテ本條改正)

第三十條　第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　衛生部ノ教育ニ關スル事項
二　建築、被服、糧食、給水、排水等ノ衛生ニ關スル事項
三　防疫及治病ニ關スル事項
四　衛生材料ニ關スル事項
五　衛生統計及衛生報告ニ關スル事項
六　軍醫學校衛生會議及中央衛生材料廠ニ關スル事項

第三十一條　醫務局第二課長ハ陸軍一等軍醫正若クハ二等軍醫正ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍二、三等軍醫正一等軍醫ヲ以テ之ニ補ス

第三十二條　第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　衛生部ノ人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
二　衛生ニ係ル規程ノ審査ニ關スル事項
三　身體檢査及恩給診斷ニ關スル事項

四　傷疾病ニ因ル服役免除ニ關スル事項
五　赤十字社其ノ他篤志看護團ニ關スル事項
六　其ノ他衛生ニ關スル事項

第三十三條　各局課長ノ課員ハ其ノ課長ノ命ヲ受ケ其ノ課務ニ從事セシム
第三十四條　法官部ニ部員四人ヲ置キ奏任理事ヲ以テ之ニ充テ部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事セシム
第三十五條　法官部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　軍事司法ニ關スル事項
二　監獄ニ關スル事項
三　法官部及監獄ノ人員ニ關スル事項
第三十六條　法官部ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス
第三十七條　陸軍省ニ屬百三十八人錄事三人技手九人ヲ置ク

海軍省官制（明治三十年三月勅令第五十九號）

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

第一條　海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス
第二條　海軍大臣官房ニ主事二人ヲ置ク
主事ハ海軍上長官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣又ハ次ノ官命ヲ承ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ掌ル
第三條　海軍大臣祕書官ハ二人トシ一人ハ主事ヲ以テ之ヲ兼子シメ一人ハ海軍上長官若クハ士官

ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌ル
專務祕書官ハ命ヲ承ケ海軍大臣官房ノ事務ニ服ス
第四條　海軍省ニ專任參事官一人ヲ置ク
海軍省ニ書記官ヲ置カス
第五條　海軍大臣官房ニ人事課ヲ置ク
人事課長ハ海軍大佐ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス
人事課ニ專務課僚三人ヲ置キ海軍少佐士官ヲ以テ之ニ補ス
第六條　人事課ニ於テハ高等武官、候補生、准士官及文官ノ進退、任免、非職、命課、增俸其ノ他ノ人事、軍人軍屬ノ叙位、叙勳、記章、褒章、賞與並恩給ニ關スル事項ヲ管掌ス
第七條　海軍省ニ軍務局、醫務局、經理局及司法部ヲ置キ軍務局長ハ海軍將官、醫務局長ハ海軍軍醫總監、經理局長ハ海軍主計總監ヲ以テ之ニ補シ司法部長ハ主理ヲ以テ之ニ充ツ
第八條　軍務局ニ於テハ建制、編制、役務、教育、訓練、演習、檢閲、高等武官ノ補充、下士卒ノ任用進級、兵員ノ徵募、軍紀、風紀、戒嚴、徵發、儀式、禮式、服制、旗章、海上保安、水路、望樓、運輸通信、艦船、兵器艦營需品及測器ニ關スル事項ヲ管掌シ軍事課、機關課、造船課及兵器課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム
第九條　軍務局軍事課長ハ海軍大佐機關課長ハ海軍機關大監、造船課長ハ海軍造船大監、兵器課長ハ海軍大佐若クハ造兵大監ヲ以テ之ニ補ス
各課ヲ通シ專務課僚十三人ヲ置キ海軍少佐同相當官大尉同相當官ヲ以テ之ニ補ス
第十條　醫務局ニ於テハ醫務、衛生、恩給診斷、治療品、軍人體格及軍醫官ノ教育補充ニ關スル

事項ヲ管掌シ第一課及第二課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第十一條　醫務局各課長ハ海軍軍醫大監ヲ以テ之ニ補ス

各課ヲ通シ專務課僚四人ヲ置キ海軍軍醫少監、藥劑監大軍醫ヲ以テ之ニ補ス

第十二條　經理局ニ於テハ豫算、決算、出納、給與、被服、糧食、通常物品、官有財產、建築、用度及主計官ノ教育補充ニ關スル事項ヲ管掌シ金錢及物品ノ收支ヲ監督シ第一課、第二課及第三課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第十三條　經理局各課長ハ海軍主計大監ヲ以テ之ニ補シ及技師ヲ以テ之ニ充ツ

各課ヲ通シ專務課僚七人ヲ置キ海軍主計少監大主計ヲ以テ之ニ補シ及技師ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條　司法部ニ於テハ軍事司法、懲罰、監獄及主理、錄事並監獄ノ人員ニ關スル事項ヲ管掌ス

第十五條　司法部ニ部員三人ヲ置キ主理ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　各局長及司法部長ハ海軍大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス

第十七條　各局ノ課長ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ課務ヲ掌ル

第十八條　課僚ハ課長ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第十九條　司法部ノ部員ハ部長ノ命ヲ承ケ其ノ事務ニ服ス

第二十條　海軍省ニ海軍上等兵曹五人、海軍上等機關兵曹一人、海軍船匠師一人、屬八十五人、技手十八人及錄事三人ヲ置キ海軍大臣官房各局部課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム

第二十一條　司法部ノ職員ハ海軍高等軍法會議ノ事務ニ服ス

附則

第二十二條　本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

◎海軍區區畫及軍港（明治二十六年五月勅令第三十八號）

朕海軍區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海軍區トス其區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區

陸中國南九戸北閉伊郡界ヨリ約伊國南半呂東半呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南半呂東半呂郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前豐前國界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並內海

第三海軍區

筑前豐前國界ヨリ九州海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥及陸中國北九戸南九戸兩郡ノ海岸海面

第二條　各海軍區ニ軍港ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一海軍區軍港
相模國三浦郡横須賀
第二海軍區軍港
安藝國安藝郡吳
第三海軍區軍港
肥前國東彼杵郡佐世保
第四海軍區軍港
丹後國加佐郡舞鶴
第五海軍區軍港
膳振國室蘭郡室蘭

第三條　各海軍區ノ要港ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　各海軍區ハ其軍港ニ置ク所ノ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム
舞鶴及室蘭鎮守府ヲ設置スルマテノ間第四海軍區中越後以東及第五海軍區ヲ横須賀鎮守府ニ管セシメ第四海軍區中越中以西ヲ吳鎮守府ニ管セシム

司法省官制（明治二十六年十月勅令第百四十三號）

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法省官制

第一條　司法大臣ハ各裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦及復權ニ關スル事項其ノ他

諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル
一　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝其ノ變更ニ關スル事項
二　裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項

第三條　司法省專任參事官ハ四人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

第四條　司法省ニ民刑局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
一　民事、刑事及其ノ他ノ法律命令ニ關スル事項
二　裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項
三　恩赦及復權ニ關スル事項

第五條　民刑局長ハ勅任トス

第六條　司法省屬ハ八十人ヲ以テ定員トス

第七條　司法省ニ專任技師一人專任技手四人ヲ置ク（明治三十年三月勅令第七十四號ヲ以テ本條改正）

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

文部省官制（明治三十年十月勅令第三百四十二號）

朕文部省官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條　文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項

二　公立學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項

三　文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スル事項

四　海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項

五　高等教育會議ニ關スル事項

六　學校衛生顧問會議ニ關スル事項

七　博覽會ニ關スル事項

八　褒賞ニ關スル事項

第三條　文部省專任參事官ハ四人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第四條　文部省ニ左ノ四局ヲ置ク

高等學務局

普通學務局

實業教育局

圖書局

第五條　高等學務局長普通學務局長實業教育局長圖書局長ハ勅任トス

第六條　高等學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　帝國大學及高等學校ニ關スル事項

二　專門學校ニ關スル事項

三　中學校ニ關スル事項

四　美術學校及音樂學校ニ關スル事項

五　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

六　天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項

七　學術技藝ノ保護奬勵ニ關スル事項

八　震災豫防調査會ニ關スル事項

九　學士會院ニ關スル事項

十　學術會ニ關スル事項

十一　學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

十二　高等教育ニ係ル雇外國人ニ關スル事項

第七條　普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　師範教育ニ關スル事項

二　小學校及幼稚園ニ關スル事項

三　高等女學校ニ關スル事項

四　盲啞學校ニ關スル事項

五　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

六　教育博物館ニ關スル事項

七　通俗教育及教育會ニ關スル事項

八　學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
九　普通教育ニ係ル雇外國人ニ關スル事項
第八條　實業教育局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　農學校ニ關スル事項
二　商業學校ニ關スル事項
三　工業學校ニ關スル事項
四　徒弟學校及實業補習學校ニ關スル事項
五　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
六　實業教育費國庫補助ニ關スル事項
七　實業學校商議員ニ關スル事項
八　實業教育ニ係ル雇外國人ニ關スル事項
第九條　圖書局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　教科用圖書ノ檢定及認可ニ關スル事項
二　教科用圖書其ノ他教育上必要ナル圖書ノ編纂及翻譯ニ關スル事項
三　圖書館ニ關スル事項
四　參考圖書ノ保管ニ關スル事項
第十條　文部省ニ專任視學官七人ヲ置ク奏任トス
視學官ハ大臣次官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察ヲ掌リ又便宜各局課ノ事務ヲ助ク
第十一條　文部省ニ專任圖書審査官五人專任圖書審査官補十人ヲ置ク

圖書審査官ハ奏任トス圖書局ノ事務ニ從事ス
圖書審査官補ハ判任トス圖書審査官ノ事務ヲ助ク
第十二條　文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル
文部省ニ專任技手十人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク
第十三條　文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス大臣及次官ノ命ニ依リ又ハ各局長ノ指揮ヲ受ケテ學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル
文部省ニ學校衛生主事補二人ヲ置ク判任トス學校衛生主事ノ事務ヲ助ク
第十四條　文部省屬ハ百五人ヲ以テ定員トス
附則
第十五條　第十三條ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生主事ヲ置ク

（明治二十九年五月勅令第八十五號）

朕文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生主事ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條　文部省ニ學校衛生顧問九人以內及學校衛生主事一人ヲ置ク
第二條　學校衛生顧問ハ文部大臣ノ諮詢ニ應シテ學校衛生ニ關スル事項ヲ審議ス
第三條　學校衛生主事ハ文部大臣ノ命ニ依リ又ハ各局長ノ指揮ヲ承ケ學校衛生顧問ニ諮詢スヘキ事項ノ調査其ノ他學校衛生ニ關スル事ヲ掌ル
第四條　學校衛生顧問及學校衛生主事ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
第五條　學校衛生主事ハ學校衛生顧問ト同一ノ資格ヲ以テ會議ニ參列ス

文部大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ學校衛生顧問ノ會議ニ參列セシムルコトヲ得但可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第六條　學校衛生顧問ノ會議ニ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條　學校衛生顧問ニハ一箇年三百圓以内學校衛生主事ニハ一箇年千二百圓以内ノ手當ヲ給ス

農商務省官制（明治三十年六月勅令第百八十三號）

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

第一條　農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外内外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　農商務省專任參事官ハ五人專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス

第四條　農商務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

農務局
商務局
工務局
山林局
鑛山局
特許局

水産局

第五條　農務局長、商務局長、工務局長、山林局長、鑛山局長、特許局長及水産局長ハ勅任トス

第六條　農務局ニ於テハ農事、蠶絲、製茶、畜産、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　農務局ニ於テハ商事及會社ニ關スル事務ヲ掌ル

商務局ニ商品陳列館ヲ置キ内外ノ商品見本ヲ蒐集陳列シ衆庶ノ觀覽參考ニ供セシム

第八條　工務局ニ於テハ工業及度量衡ニ關ル事務ヲ掌ル

第九條　山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　鑛山局ニ於テハ鑛業及地質ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條　特許局ニ於テハ發明意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム

第十二條　水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　農商務省ニ鑛山技監一人ヲ置ク鑛山局ニ屬シ鑛山技術官ヲ指揮監督シ鑛山ニ關スル技術上ノ事項ヲ掌理ス

第十四條　山林局ニ森林監督官五人ヲ置ク奏任トス森林業務ノ監督事務ヲ分掌ス

第十五條　特許局ニ專任審判官二人專任審査官十人專任事務官一人審査官補二十人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ヲ掌ル

事務官ハ奏任トス特許ニ關スル庶務ヲ掌ル

審査官補ハ判任トス審査ヲ助ク

第十六條　商品陳列館ニ技師一人書記七人ヲ置ク
書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十七條　農商務省ニ專任技師三十二人專任技手五十五人ヲ置ク
第十八條　農商務省屬ハ百六十五人ヲ以テ定員トス

鐵道作業局官制（明治三十年八月勅令第二百六十八號）

朕鐵道作業局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道作業局官制

第一條　鐵道作業局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌ル
第二條　鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク
長官
鐵道技監
部長
鐵道車務官
鐵道技師
鐵道書記
鐵道技手
鐵道書記補
第三條　長官ハ一人勅任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　鐵道技監ハ專任四人ヲ以テ定員トス技術官ヲ指揮監督シ其ノ事務ヲ掌理ス
第五條　部長ハ定員五人奏任トシ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ分掌ス
第六條　鐵道事務官ハ專任千五人奏任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル
第七條　鐵道技師ハ專任五十四人ヲ以テ定員トス
第八條　鐵道書記ハ八百七十三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第九條　鐵道技手ハ三百六十八人ヲ以テ定員トス
第十條　鐵道書記補ハ五百八十二人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク
第十一條　鐵道作業局ニ左ノ五部ヲ置ク
建設部
工務部
汽車部
運輸部
計理部
各部事務ノ分掌ハ遞信大臣之ヲ定ム
第十二條　建設部長工務部長汽車部長ハ鐵道技監ヲシテ之ヲ兼子シム
第十三條　遞信大臣必要ニ應シ局中ニ課ヲ置キ又ハ地方ニ鐵道業務取扱ノ部所ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
課ニ課長部所ニ部所長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十四條　明治二十九年勅令第八十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

遞信省官制（明治三十年八月勅令第三百六十七號）

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

第一條　遞信大臣ハ官設鐵道郵便小包郵便郵便爲替郵便貯金電信電話及航路標識ヲ管理シ私設鐵道電氣造船水陸運輸ニ關スル事業及航路船舶海員ヲ監督ス

第二條　遞信省專任參事官ハ四人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第三條　遞信省ニ左ノ五局ヲ置ク

鐵道局
郵務局
電務局
管船局
監査局

第四條　鐵道局長郵務局長電務局長及監査局長ハ勅任トス

第五條　鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　鐵道ノ監督ニ關スル事項
二　私設鐵道ノ免許ニ關スル事項

第六條　郵務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　郵便、小包郵便、郵便爲替、及郵便貯金ニ關スル事項
二　陸運事業ノ監督ニ關スル事項

第七條　電務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電信、電話ニ關スル事項
二　電氣事業ノ監督ニ關スル事項

第八條　管船ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航路標識ニ關スル事項
二　航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

第九條　監査局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ一般及特別會計ノ監査ニ關スル事項
二　本省所管ノ經費諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
三　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
四　電信用品作業ニ關スル事項
五　燈臺用品作業ニ關スル事項

第十條　遞信省ニ專任技監二人ヲ置ク鐵道局及管船局ニ屬シ技術官ヲ指揮監督シ其ノ事業ヲ掌理ス

第十一條　遞信省ニ專任遞信事務官六人ヲ置ク奏任トス各局ニ屬シ其ノ事務ヲ分掌ス

第十二條　遞信省ニ專任技師二十人ヲ置ク

第十三條　遞信省屬ハ三百三十人ヲ以テ定員トス

第十四條　遞信省ニ專任技手七十六人ヲ置ク

◎郵便及電信局官制（明治三十年八月勅令第二百六十九號）

朕郵便及電信局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便及電信局官制

第一條　郵便及電信局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ事務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局トス

第三條　一等郵便電信局ニ於テハ管轄內ノ各郵便電信局、郵便局電信局ヲ監督ス

遞信大臣ノ指定シタル一等郵便電信局ニ於テハ電信建築ノ事務ヲ兼掌ス

遞信大臣ハ二等郵便電信局、二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域內ノ三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局監督事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトアル可シ

遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便及電信ノ支局所ヲ置キ郵便電信ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　一等郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信事務官
通信書記
通信書記補

第十五條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス、

第十六條　通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第十七條　一等郵便電信局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十八條　二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

（別表）

◎在外郵便電信局、郵便局官制（明治三十年八月勅令第二百七十號）

朕在外郵便電信局、郵便局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ公布セシム

在外郵便電信局郵便局官制

第一條　在外各地ノ郵便電信局、郵便局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ業務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　在外各地ノ郵便電信局、郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信書記
通信書記補

第三條　在外各地ノ郵便電信局長、郵便局長ハ奏任又ハ判任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス
第五條　通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通信書記ノ事務ヲ助ク
第六條　在外郵便電信局、郵便局ノ名稱、位地ハ遞信大臣之ヲ定ム

◉郵便爲替貯金管理所官制

（明治三十年八月勅令第二百七十一號）

朕郵便爲替貯金管理所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替貯金管理所官制

第一條　郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便貯金檢査計算ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條　郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
通信事務官
通信事務官補
通信書記
通信書記補

第三條　郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ヲ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信事務官、通信事務官補ハ奏任トス第三條ニ依リ所長タル者ノ外所長ノ事務ヲ助ク又ハ郵便爲替貯金管理支所長トナリテ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記、簿記、計算ノ事務ニ從事ス
第六條　通信書記補ハ判任トス通信書記ノ事務ヲ助ク
第七條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

◉電話交換局官制

（明治三十一年八月勅令第二百七十四號）

朕電話交換局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電話交換局官制

第一條　電話交換局ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條　電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信技師
通信書記
通信技手

遞信大臣ハ必要ナシト認ムル場合ニ於テ電話交換局ニ通信技師ヲ置カサルコトヲ得

第三條　局長ハ通信技師又ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第五條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ電話交換ノ工事ニ從事ス

第七條　電話交換局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

第八條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ電話交換支局ヲ設置シ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

㊙郵便及電信局在外郵便電信局郵便局郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員

（明治三十年勅令第三百七十六號）

朕郵便及電信局、在外郵便電信局、郵便局郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員ノ定員ハ各局ヲ通シテ左ノ通トス但在外郵便電信局長郵便局長及三等郵便電信局長三等電信局長ハ定員ノ外トス

通信事務官	專任三十一人
通信事務官補	專任三十七人
通信技師	專任十九人
通信書記	專任二千三百三十一人
通信技手	專任二百二十六人
通信書記補	專任四千四百七人

第二條　各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

㊙臺灣總督府官制（明治三十年十月勅令第三百六十二號）

朕臺灣總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム、

臺灣總督府官制

第一條　臺灣總督府ニ臺灣總督ヲ置ク

總督ハ臺灣及澎湖列島ヲ管轄ス

第二條　總督ハ親任トス陸海軍大將若ハ中將ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　總督ハ委任ノ範圍內ニ於テ陸海軍ヲ統率シ內閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス

第四條　總督ハ軍政及陸海軍軍人軍屬ノ人事ニ關シテハ陸軍大臣若ハ海軍大臣、防禦作戰竝動員計畫ニ關シテハ參謀總長若ハ海軍軍令部長、陸軍軍隊教育ニ關シテハ監軍ノ區處ヲ承ク

第五條　總督ハ其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ總督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以內ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條　總督ハ其ノ管轄區域內ノ防備ノ事ヲ掌ル

第七條　總督ハ其ノ管轄區域內ノ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ內閣總理大臣陸軍大臣海軍大臣參謀總長及海軍軍令部長ニ之ヲ報告ス

ヘシ

第八條　明治二十九年法律第六十三號第二條又ハ第四條ノ勅裁ヲ請フトキハ內閣總理大臣ヲ經由スヘシ

第九條　總督ハ必要ト認ムル地域內ニ於テ其ノ地ノ守備隊長若ハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第十條　總督ハ知事若ハ廳長ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第十一條　總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　總督ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ叙位叙勳ヲ上奏ス

第十三條　總督ハ所部文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ竝ニ奏任官ノ免官ハ內閣總理大臣ヲ經テ上奏シ其ノ他ハ之ヲ專行ス

第十四條　總督府ニ總督官房ヲ置ク

總督官房ニ副官二人及專任祕書官二人ヲ置ク機密事務及文書ノ取扱ヲ掌ル

副官ハ陸海軍佐尉官ノ內各一人ヲ以テ之ニ充ツ

祕書官ハ奏任トス

第十五條　總督府ニ陸軍幕僚海軍幕僚民政局財務局ヲ置ク

陸海軍幕僚條例ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　民政局ハ民政及司法ニ關スル一般ノ事務ヲ掌ル

第十七條　財務局ハ財務ニ關スル專務ヲ掌ル

第十八條　各局中ノ部課ハ總督之ヲ定ム

第十九條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

民政局長

財務局長

事務官

參事官

技師

通譯官

屬

技手

通譯官補

第二十條　民政局長財務局長ハ各一人勅任トス總督ノ命ヲ承ケ局務ヲ整理ス

第二十一條　事務官ハ專任十八人勅任又ハ奏任トス民政局又ハ財務局ニ屬シ總督又ハ局長ノ命ヲ承ケ各部課ノ事務ヲ掌ル

第二十二條　參事官ハ專任二人勅任又ハ奏任トス總督又ハ民政局長ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ及臨時命ヲ承ケ各部課ノ事務ヲ助ク

第二十三條　技師ハ二十人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第二十四條　通譯官ハ專任二人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ文書翻譯及通譯ノ事ヲ掌ル

第二十五條　屬、技手及通譯官補ハ通シテ三百人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術及通譯等ニ從事ス

附則

第二十六條　本令明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

第二十七條　明治二十九年勅令第八十八號臺灣總督府民政局官制同年勅令第百十六號臺灣總督府軍務局官制竝ニ同年勅令第百六十九號臺灣總督府民政局臨時土木部官制ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

臺灣總督府評議會章程（明治二十九年三月勅令第八十九號）

朕臺灣總督府評議會章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府評議會章程

第一條　臺灣總督府ニ評議會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

總督
民政局長
軍務局長
民政局部長
軍務局部長
民政局參事官

總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項職員ノ外會議ノ事件ニ關係アル文武官ニ命シテ其臨時

其議事ニ參與セシムルコトヲ得

第二條　評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルノ外總督ニ於テ特ニ必要ト認メテ諮詢スル事項ニ付意見ヲ答申スルモノトス（明治三十年五月勅令第百六十一號ニテ本項改正）

一　豫算案及決算

二　重大ナル土木工事ノ設計

三　人民ノ請願ニシテ特ニ重大ナルモノ

右ノ外總督ニ於テ必要ト認メ特ニ諮詢スル事項

第三條　評議會ハ總督ヲ以テ議長トス議長事故アルトキハ出席員中ノ官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第四條　評議會ノ議案ハ總督之ヲ發ス

第五條　評議會ノ會議ハ總員三分ノ二以上ノ出席アルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第六條　評議會ノ會議ハ出席員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル、

第七條　總督ハ何時タリトモ既ニ發シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第八條　總督ニ於テ評議會ノ議決ニ同意スヘカラスト認ムルトキハ其ノ理由ヲ付シテ再議ヲ求ルコトヲ得

第九條　評議會ニ幹事一人及書記若干人ヲ置ク幹事ハ民政局參事官書記ハ民政局屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ上官ノ命ヲ承ケ出席員ノ氏名會議ノ事件及議決ノ要旨ヲ筆記スヘシ